

第3節 白石構内(白石遺跡)の調査

1. 教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査

調査地区 特別教室棟・教室棟A間空き地

調査面積 60㎡

調査期間 令和元年7月23日
～令和元年8月9日

調査担当 水久保祥子 横山成己

調査結果

(1) 調査の経緯と経過(図25・26、写真66)

附属山口小学校改修工事に伴い特別教室棟と教室棟Aの間にエレベーター・渡り廊下建設工事が計画された。平成30年度第6回埋蔵文化財専門委員会(平成31年3月29日(金))にて埋蔵文化財保護対応に関する審議を行い、検討の結果、全体工事のうちエレベーター部分について予備発掘調査を行うことが承認された。

しかし、その後、渡り廊下部分に関して設計変更がなされ、掘削範囲が広がったため、エレベーター部分のみの予備発掘調査としていたものを改めることとし、エレベーター・渡り廊下建設工事全体に対しての埋蔵文化財保護対応について館長裁量で「本発掘調査」に変更され、その旨、埋蔵文化財専門委員会に報告された。

以上の経緯を経て、工事計画地を対象に本発掘調査を実施する運びとなった。なお、調査区の設定において、工事計画によればエレベーター部分と渡り廊下部分とは1mほどの間隔があったが、施設環境部の担当者との相談の上、調査の便宜上、間隔をあげずに両者をつなげて調査区を設定した。また、施設環境部からの依頼により特別教室棟改修工事の足場設置に対応するため、特別教室棟側を当初予定範囲から約2m内側に設定した(図26)。

7月19日(金) 道具・重機搬入

7月22日(月) 雨天中止(調査範囲の草刈り)

7月23日(火)～7月24日(水) バリケード設置、重機掘削

7月25日(木) 遺構検出

7月26日(金) 遺構検出状況写真撮影

7月29日(月) 遺構掘削

7月30日(火) 遺構土層断面写真撮影・断面図作成

7月31日(水)～8月1日(木) 遺構掘削、調査区壁土層断面写真撮影・断面図作成

8月2日(金) 完掘写真撮影、平面図作成

8月5日(月) 平面図作成、埋め戻し

8月6日(火) 雨天中止

8月7日(水)～8月9日(金) 埋め戻し、道具・重機搬出

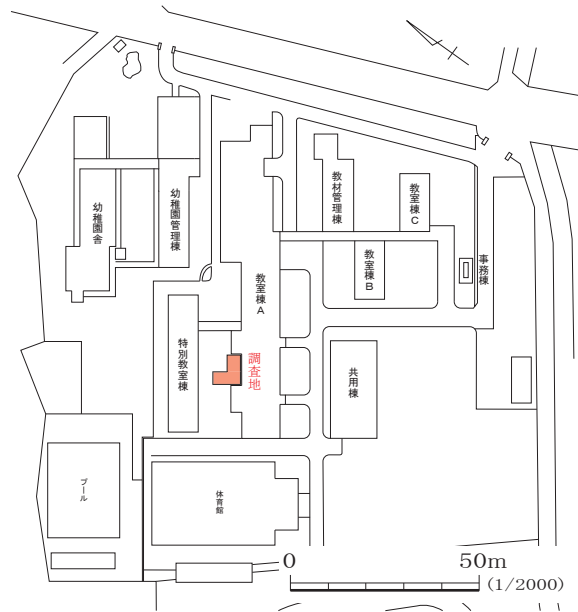


図25 調査区位置図

(2) 調査成果(図27～29、写真67～73)

調査区内は既存の配管等により大部分が削平を受けており、地山は調査区西半の一部に確認できたが、地山面上では遺構は確認されなかった。地山は明黄褐色のシルト層で、その上層は砂礫層と砂層の互層となっており、後述する埋没河川の影響による堆積の可能性がある。

調査区北端には、北東から南西方向に流れる埋没河川を検出した(図27・28、写真67・68・72)。検出範囲が狭小ではあるものの、河川の両肩がわずかに確認でき、調査区内での幅は約2.4m、深度は最深部で1.0mを測る。河川北端と南端の川底の比高差は約40cmで、北東から南西へと流れる。

既往の調査では、幼稚園舎の北東側の調査区で河川跡が検出され、幼稚園舎の南側で砂礫層と砂層の堆積が確認されている。今回検出した埋没河川の詳細な時期は出土遺物がないため不明であるが、幼稚園舎北東側の河川跡が上流部となるのであれば、それに準ずる時期となる。また、今回の調査区の東西では、地山の上層で砂礫層と砂層の互層が確認されている。今回調査区の西半で確認した土層堆積と近似しており、埋没河川の影響が及んでいるものと考えられる(図29)。

なお、埋没河川の上位には間知石の石列がみられた(写真72)。これは附属山口小学校の前身建物に関わるものとみられるが、出土遺物等がなく前身建物に関する記録も未確認であるため不明確である。本来ならば、間知石を取り除き河川の掘削を行うものではあるが、隣接する配管の真砂土の保護のため石列を除去することはしなかった。

調査区の大半が攪乱を受けており、残存範囲は狭小ではあるが、過去の調査で部分的に確認されていた河川跡に続く可能性がある埋没河川を検出したことは、調査地周辺の旧地形を復元する上で貴重な成果が得られたものとする。また、河川機能時の遺構面の下層にはさらに礫層が堆積しており、古くから流筋を変えながら河川が流れていたことがうかがえる(写真73)。

【註】

- 1) 河村吉行・古賀真木子(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報IX』, 山口
- 2) 河村吉行・杉原和恵(1987)「教育学部附属幼稚園・山口小学校部分の調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報VI』, 山口

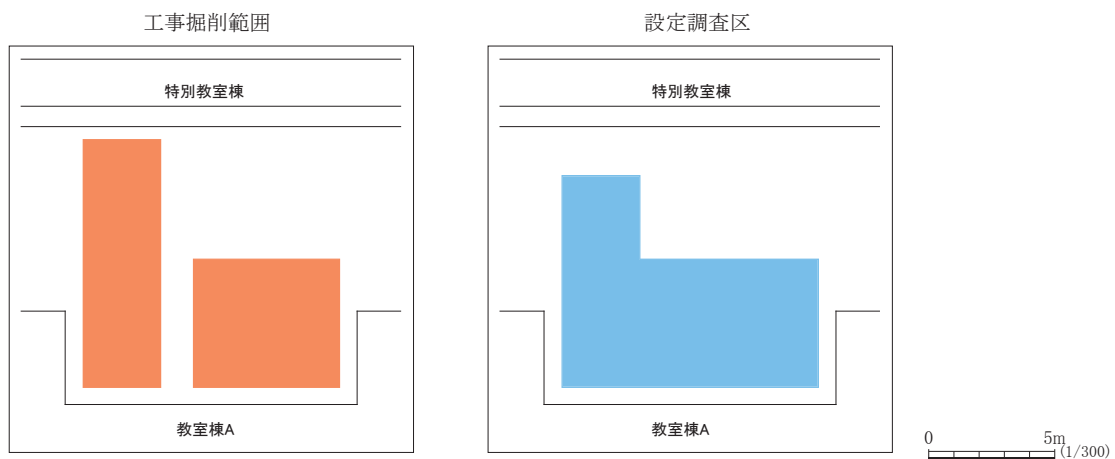
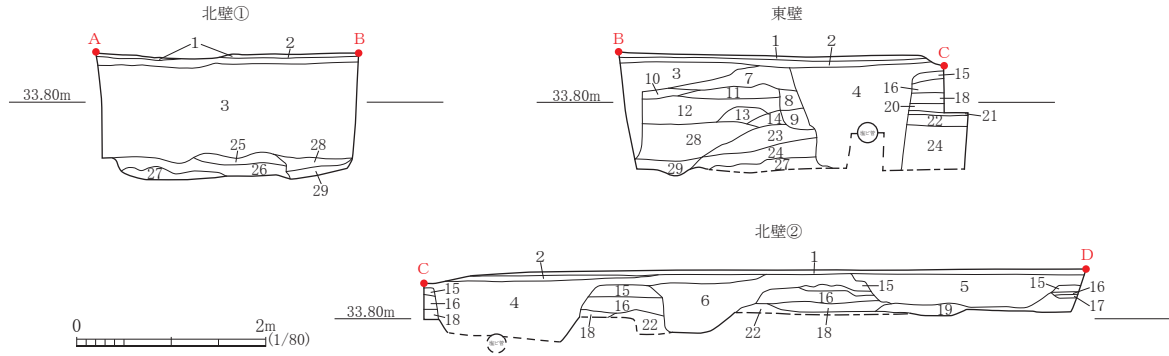


図26 工事掘削範囲と設定調査区

令和元年 白石構内(白石吉田遺跡)の調査



- 1 表土
- 2 表土・盛土
- 3~6 攪乱
- 7 にぶい黄褐色 (10YR6/8) シルト~極細砂 (1~2cmφの礫少量含む) (…造成土)
- 8 にぶい黄褐色砂質シルト (5cmφの礫含む) (…間知石の裏込め土)
- 9 褐灰色 (10YR5/1) 極細砂混シルト
- 10 明褐色 (7.5YR5/8) 細砂~中砂 (2cmφの礫少量含む)
- 11 にぶい黄色 (2.5Y6/8) 細砂~中砂 (1~3cmφの礫少量含む)
- 12 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂~細礫
- 13 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト混細砂~中砂
- 14 灰色 (5Y6/1) シルト細砂~中砂 (0.5cmφの礫少量含む)
- 15 黄褐色 (2.5Y5/3) 砂質シルト (炭化粒含む)

- 16 にぶい黄橙色 (10YR6/3) 砂質シルト (炭化粒含む)
 - 17 灰オリーブ色 (5Y6/2) 砂質シルト
 - 18 灰黄色 (2.5Y7/2) 粗砂~極粗砂混砂質シルト
 - 19 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂~細礫
- 【地山層】
- 20 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質シルトに明黄褐色 (10YR6/8) 砂質シルト まだらに混じる
 - 21 灰褐色 (7.5YR7/2) シルト (筋状に炭化物の層入る)
 - 22 灰白色 (5Y7/2) シルトに明黄褐色 (10YR6/8) シルト まだらに混じる
 - 23 灰白色 (10YR7/1) シルトに明黄褐色 (10YR6/8) シルト まだらに混じる (0.5cmφの礫含む)
 - 24 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂~細礫
 - 25 にぶい黄褐色 (10YR6/3) シルト
 - 26 灰黄色 (2.5Y7/2) 極粗砂~細礫混砂質シルトに 明黄褐色 (10YR6/8) 砂質シルトまだらに混じる
 - 27 灰黄色 (2.5Y7/2) シルト~極細砂に明黄褐色 (10YR6/8) シルト~極細砂 まだらに混じる
- 【NR1埋土】
- 28 黄灰色 (2.5Y6/1) 中砂~細砂 (2~5cmφの礫含む)
 - 29 灰黄色 (2.5Y6/2) 中砂~細礫 (1~5cmφの礫多く含む)

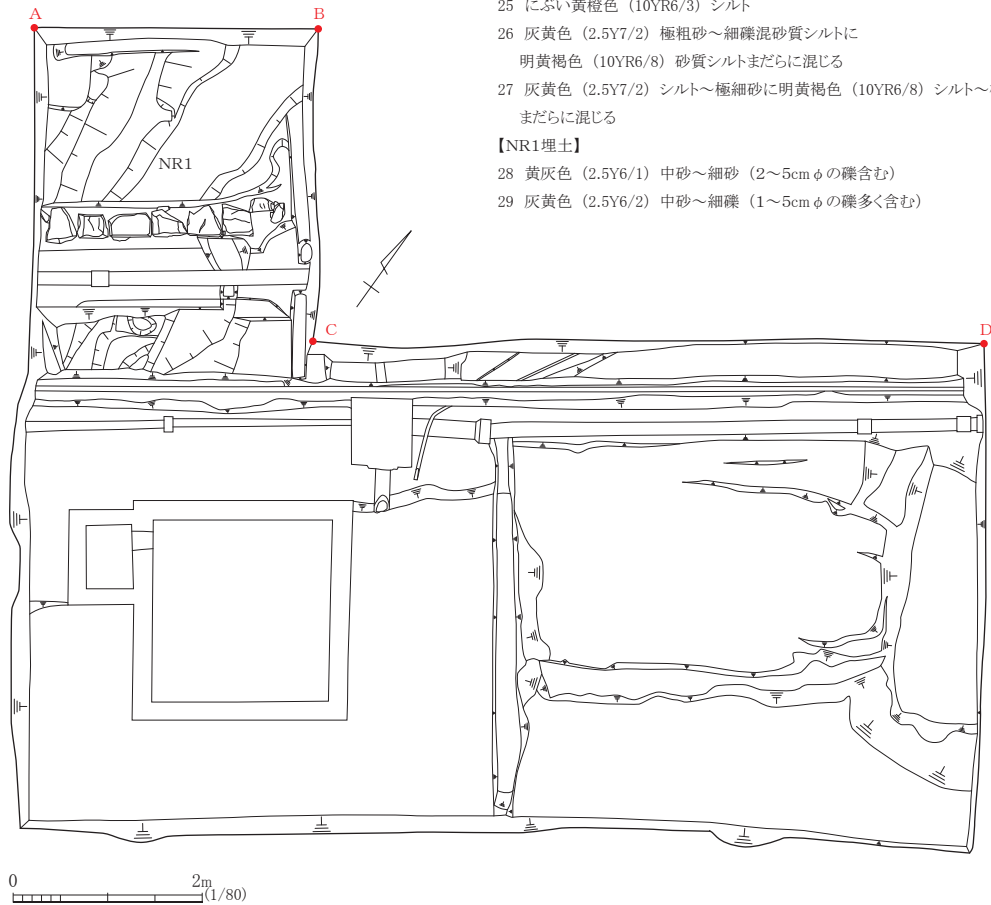


図27 調査区平面図・断面図

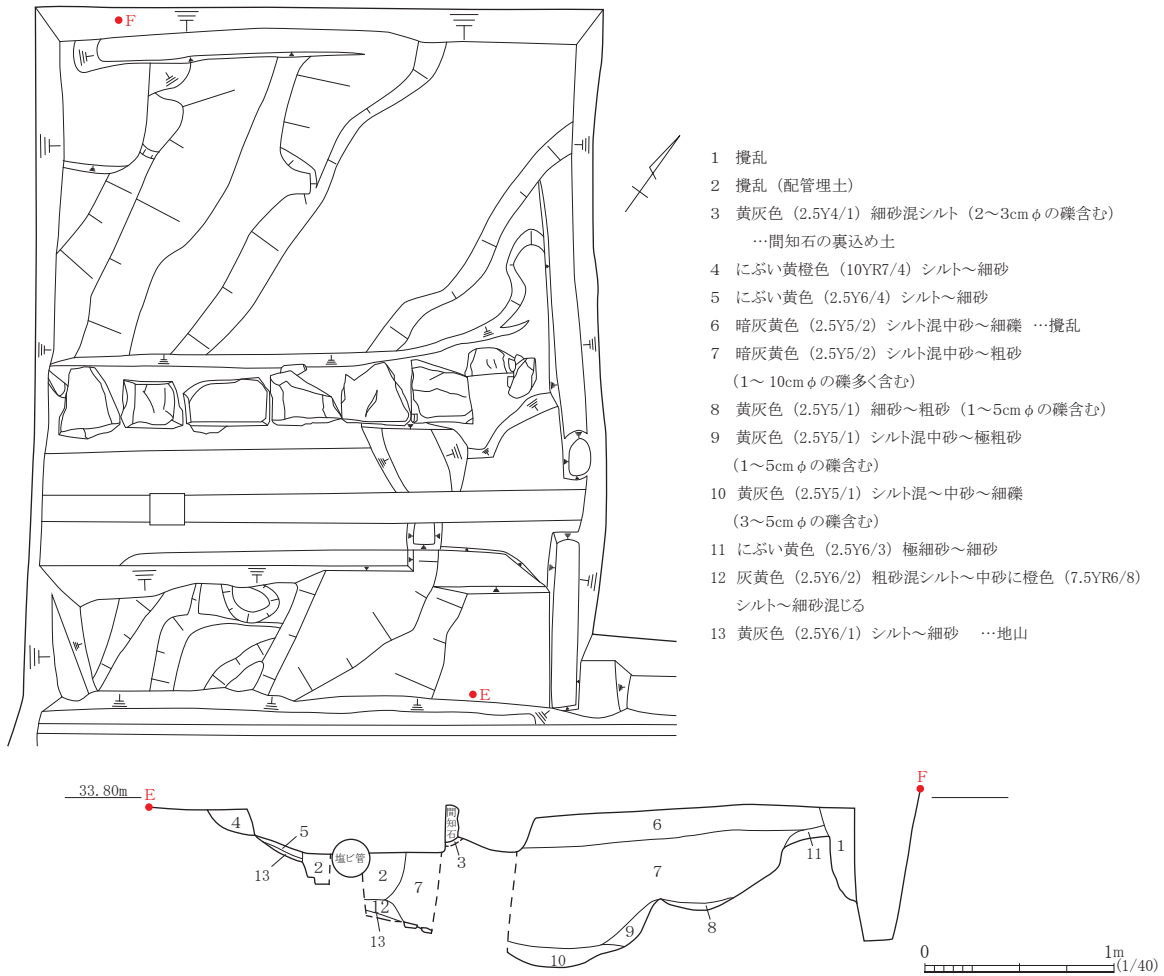


図28 NR1平面図・断面図

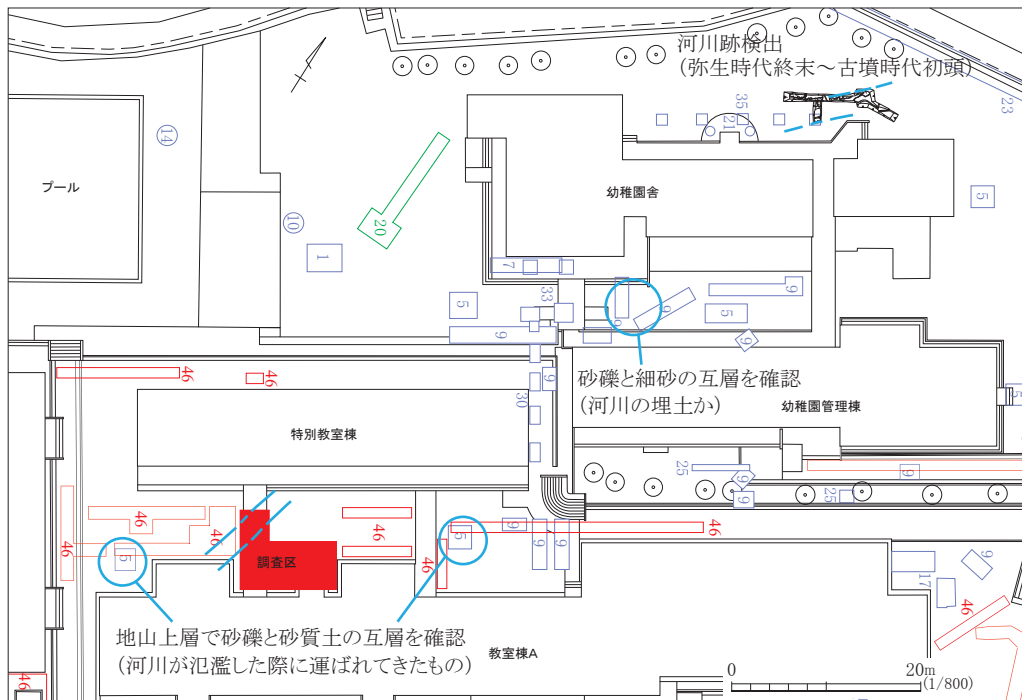


図29 調査区周辺の河川跡検出状況



写真66 調査前の状況(西から)



写真67 遺構検出状況(北西から)



写真68 遺構完掘状況(北西から)



写真69 調査区北壁①土層断面(東から)



写真70 調査区北壁②土層断面(東から)



写真71 調査区東壁土層断面(西から)



写真72 NR1土層断面(北から)



写真73 下層確認状況

2. 教育学部附属山口小学校改修工事に伴う立会調査

調査地区 附属山口小学校・幼稚園構内

調査面積 798㎡

調査期間 令和元年9月11日～令和2年3月20日

調査担当 水久保祥子 横山成己

調査結果

(1) 調査の経緯

附属山口小学校改修工事に伴い学校敷地内で既存埋設管の更新工事が計画され、平成30年度第6回埋蔵文化財専門委員会(平成31年3月29日(金)開催)にて埋蔵文化財保護対応に関する報告を行い、検討の結果、工事立会で対応することとなった。また、新規に掘削される工事計画箇所については発掘調査と同等の取り扱いとし、事前に調査を行った。

(2) 調査の経過(図30)

調査は工事の着手に合わせて順次行い、調査区名は調査順に付与した。

9月11日～9月14日(土)・17日(火) A区

9月24日(火)・25日(水) B区

9月30日(月)・10月1日(火)・2日(水) C区

10月7日(月)～9日(水) D区

10月10日(木) E区

10月17日(木) F区

10月21日(月)・23日(水) G区

10月29日(火)・11月5日(火) H区

11月14日(木)～16日(土)・17日(日) I区

11月25日(月)～27日(水)・12月5日(木)・9日(月)・10日(火) J区

11月29日(金)・30日(土)・12月2日(月)・3日(火) K区

12月14日(土)・15日(月)・18日(水) L区

12月21日(土)～25日(水) M区

12月23日(月) N区

1月8日(水) O区

1月13日(月)～16日(木) P区

1月20日(月)・21日(火)・31日(金)・2月1日(土) Q区

2月10日(月)・13日(木)～15日(土)・17日(月) R区

2月17日(月) S区

2月18日(火) T区

2月24日(月)～2月28日(金) U区

3月5日(木)・6日(金) P区・J区

3月20日(金) V区

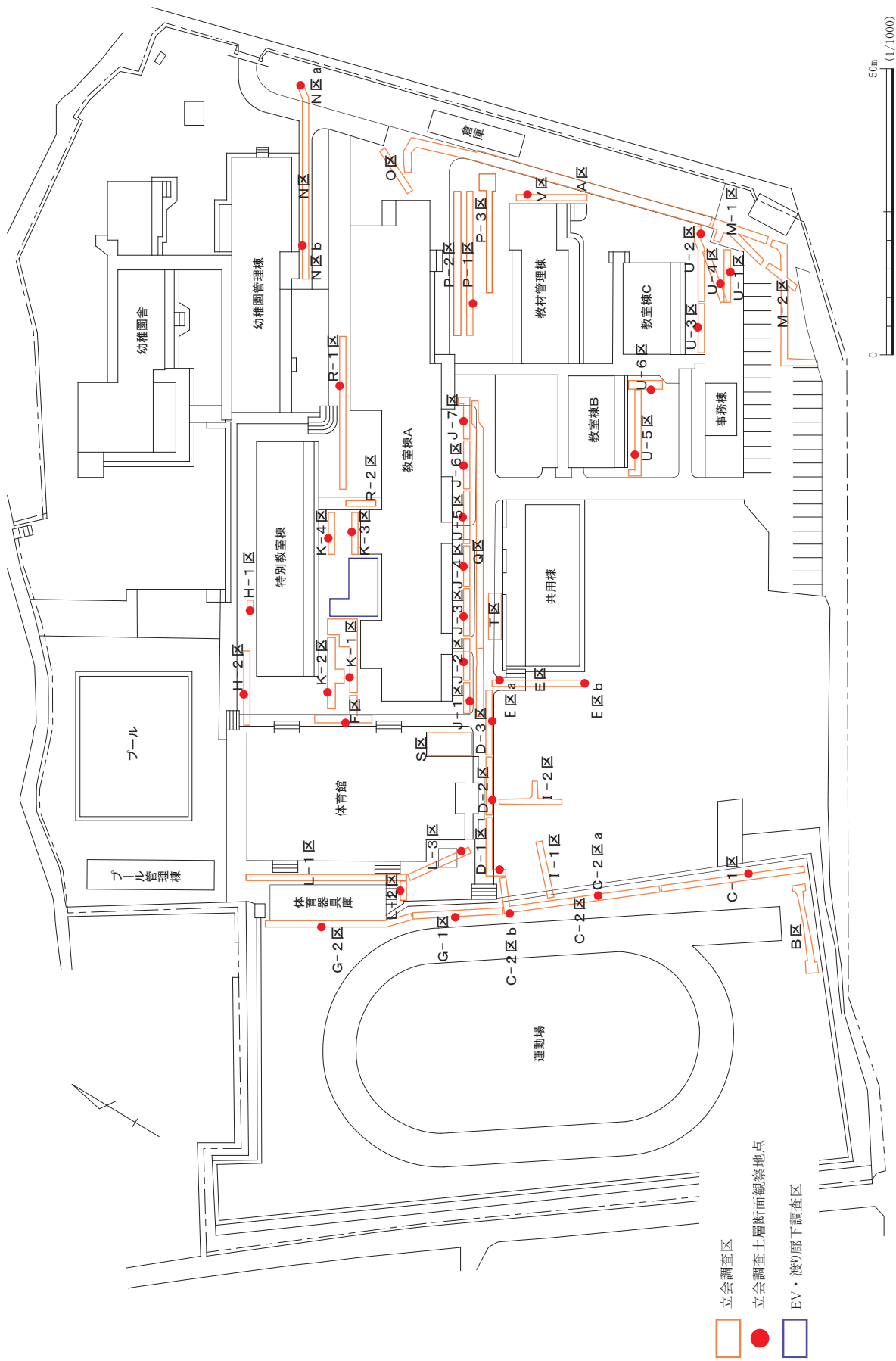


図 30 調査区位置図

(3)調査成果

調査成果について、以下、調査区毎に説明する。

A区(図31、写真74～77)

正門を入れて右手にある南北方向の通路上にあたる調査区で、教室棟Aから正門前のフェンス際までの幅約2m、長さは約56mである。基本層序は、北端部では盛土の直下で地山となるが、調査区南半部では盛土の下に旧耕土・旧床土が残存し、その下層は地山の砂礫層となる(写真76)。また調査区南端部においては、地山は砂礫層ではなく明黄褐色のシルト質土で(写真77)、土層断面において地山の上面から切り込むピット状の遺構を確認している。その他の遺構としては、調査区北端部において河川跡と思われる落ち込みを確認した(写真74)。検出した河川幅は94～144cm、深さは約30cmである。埋土は黄灰色のシルト～細礫、暗灰黄色細砂～極粗砂で、遺物は出土しなかった。

B区(図32、写真78～82)

運動場の南東部にある。層序は、調査区の東端と西端とで土質が若干異なるものの、基本的には、①表土、②盛土・攪乱、③旧耕土、④旧床土、⑤地山層となる(図32・写真81)。調査区の大半は後世の掘削により削平されていたが、東半の一部に遺構が検出された。また、西端では壁断面においても遺構を確認している。東半部で検出した遺構は、ピット5基および土坑1基、調査区の中央部分では全形が確認できたものと細長い楕円形のものが各1基と、壁際の2基の計4基のピットを検出した(図32、写真78・80)。出土遺物はなく、遺構の時期等の詳細については不明である。

C区(図33、写真83～85)

B区の東端から北へのびる調査区で、運動場の東端にあり、C-1区とC-2区と分けている。C-1区の東壁では現地地表下60cmで褐灰色砂質シルトの遺物包含層があり、その下が灰黄色シルト～細砂の地山層となる。遺物包含層は層厚5cmと薄く、大きく削平を受けているとみられる。また、地山面上から切り込む土坑状の落ち込みを土層断面で確認した(写真83)。C-2区では遺物包含層がみられず、a地点では盛土が厚く現地地表下100cmで(写真84)、b地点では現地地表下30cmで地山となる(写真85)。

D区(図33・34、写真86～88)

体育館前の通路上を通る配管路で、調査時にD-1～3区に分けている。D-1区では現地地表下72cmで旧耕土と旧床土が整地土を挟んで堆積しており、その下が砂礫の地山層となる(写真86)。D-2区は盛土の直下、現地地表下43cmで旧耕土と旧床土、その下層は砂礫層となり、D-1区とは異なり旧耕土は1層のみとなっている(写真87)。D-3区ではまた様相が異なり、旧耕土が見られない。碎石を含む盛土の下層に遺物包含層と思われる褐灰色層が堆積し、その下はシルト～細礫の地山層となる。地山面は現地地表下40cmで、地山面上から切り込むピット状の遺構を断面で確認した(写真88)。

E区(図34、写真89・90)

共用棟の西側を通る配管路である。a地点では①表土・盛土、②褐灰色細砂混シルト(遺物包含層)、③灰黄褐色細礫混砂質シルト(遺物包含層か)、④灰黄色シルト～細礫(地山)、⑤灰白色シルト～細砂(地山)の層序となっている(写真89)。b地点では①表土・盛土、②褐灰色砂質シルト(旧耕土)、③灰黄色砂質シルト(旧床土1)、④黄橙色砂質シルト(旧床土2)、⑤にぶい黄褐色細砂混砂質シルト(遺物包含層)、⑥灰黄色シルト～細礫(地山)となっており、a地点とは様相が異なる(写真90)。a地点の遺物包含層は現地地表下40cm、地山層は現地地表下70cmに対し、b地点の遺物包含層は現地地表下85cm、地山層は現地地表下100cmと高低差がある。なお、E区の中央付近では現地地表下80cmで地山となるが、表土・盛土の下層は地山に至るまで攪乱を受けており、a地点からb地点への土層の繋がりは観察できなかった。

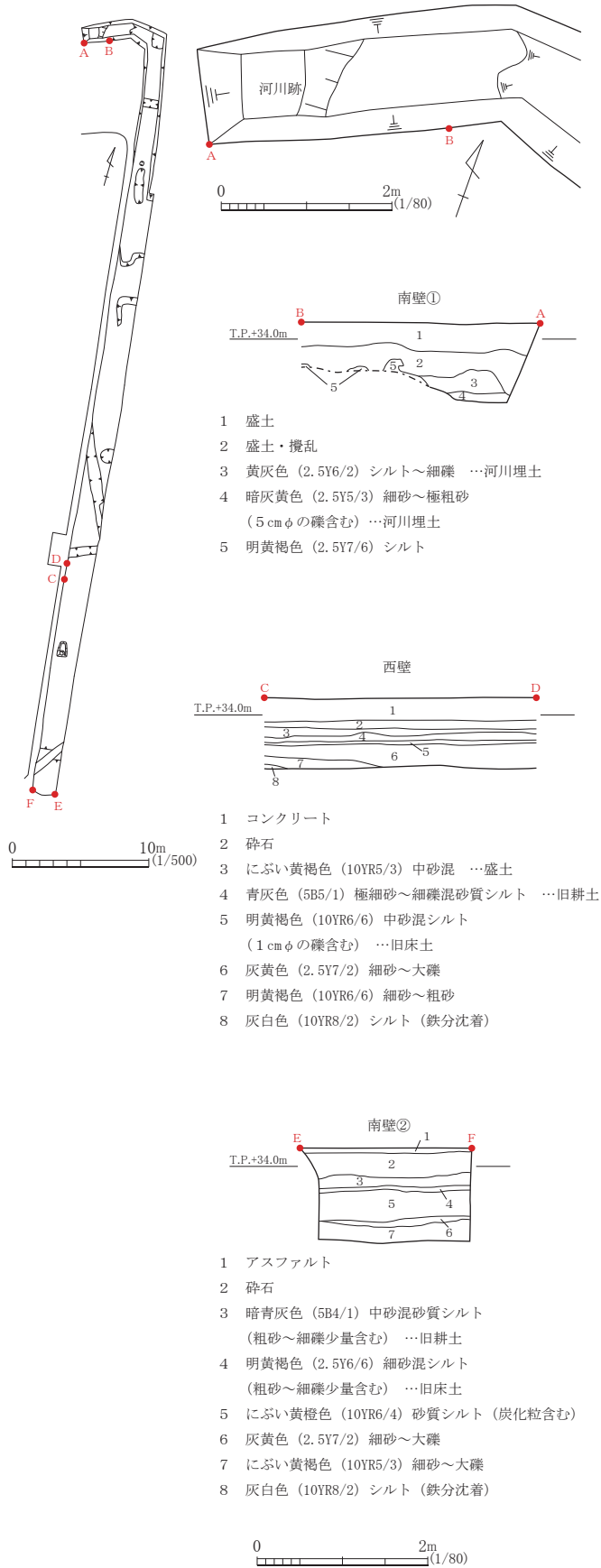


図 31 A区平面図・断面図



写真 74 A区河川跡完掘状況 (北東から)



写真 75 A区南壁①土層断面 (北から)



写真 76 A区西壁土層断面 (東から)



写真 77 A区南壁②土層断面 (北から)



写真 78 B区東端部遺構検出状況(北東から)



写真 79 B区東端部遺構完掘状況



写真 80 B区中央部遺構検出状況(北東から)



写真 81 B区北壁①土層断面(北東から)

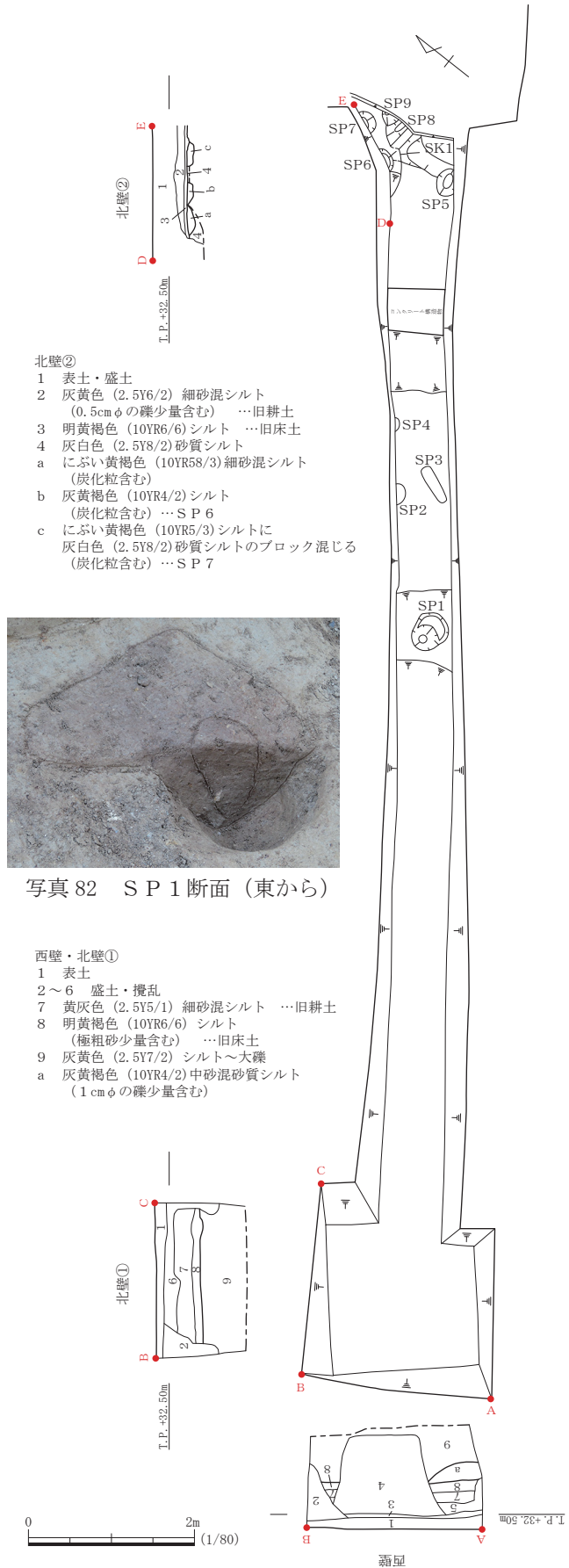


図 32 B区平面図・断面図

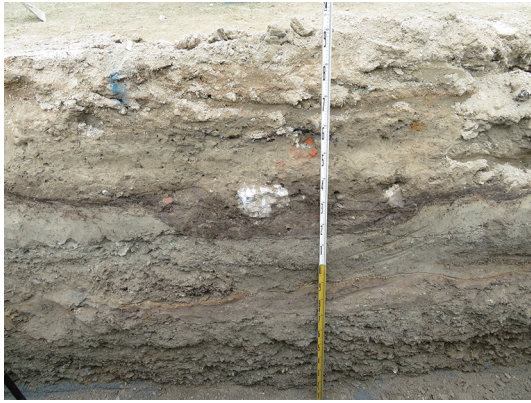
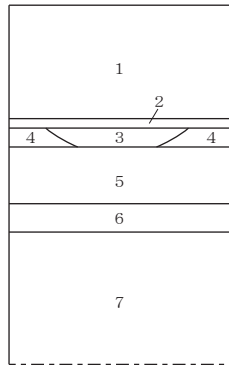


写真 83 C-1区東壁土層断面(西から)

C-1区 東壁

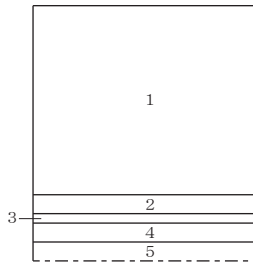


- 1 表土・盛土
- 2 褐灰色(10YR4/1)砂質シルト …遺物包含層
- 3 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルトに
灰黄色(2.5Y7/2)シルト～極粗砂のブロック
混じる(粗砂少量含む) …遺構埋土
- 4 灰黄色(2.5Y7/2)シルト～極細砂
- 5 灰黄色(2.5Y7/2)極細砂～細礫
- 6 にぶい褐色(7.5YR6/3)細砂混粘土質シルト
- 7 にぶい黄色(2.5Y6/3)細砂～大礫



写真 84 C-2区a地点東壁土層断面(西から)

C-2区a地点 東壁

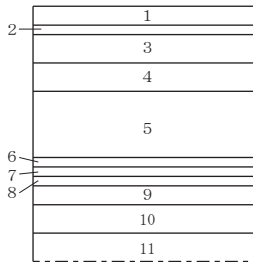


- 1 表土・盛土
- 2 灰白色(10Y7/1)シルト～細礫
- 3 明黄褐色(2.5Y7/6)シルト
- 4 灰白色(N8/)シルト
- 5 灰白色(10Y7/1)極細砂～大礫



写真 85 C-2区b地点西壁土層断面(東から)

C-2区b地点 西壁

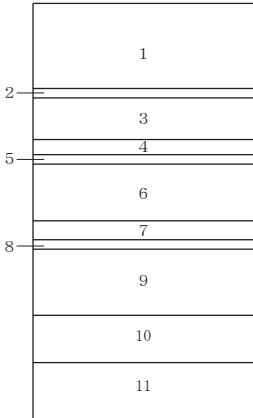


- 1 表土
- 2 砕石
- 3 盛土
- 4 灰白色(10Y7/1)極細砂～細砂
- 5 灰白色(10Y7/1)極細砂～細礫
(大礫少量含む)
- 6 灰白色(10Y7/1)極細砂～細砂
- 7 明黄褐色(2.5Y7/6)粘土質シルト
- 8 青灰色(5PB5/1)粘土質シルト
(黒い筋状に有機物の堆積あり)
- 9 灰白色(N8/)シルト～細砂
- 10 灰白色(10Y7/1)細砂混粗砂～中礫
- 11 灰白色(N8/)砂質シルト



写真 86 D-1区東壁土層断面(西から)

D-1区 東壁



- 1 表土
- 2 コンクリート
- 3 盛土
- 4 灰色(N5/)細砂混シルト …旧耕土1
- 5 にぶい黄橙色(10YR6/4)中砂混シルト
…旧床土1
- 6 明黄褐色(10YR6/6)中砂混シルトに
橙色(2.5YR6/6)シルトのブロック混じる
…整地土
- 7 褐灰色(7.5YR6/1)砂質シルト
(粗砂～細礫少量含む) …旧耕土2
- 8 にぶい黄橙色(10YR6/3)砂質シルト
(粗砂～細礫少量含む) …旧床土2
- 9 灰黄色(2.5Y6/2)シルト～細礫
(10cmφの礫少量含む)
- 10 灰黄色(2.5Y7/2)シルト～細砂
- 11 灰黄色(2.5Y7/2)シルト混中砂～粗砂



図 33 C・D区土層断面柱状図



写真 87 D-2区南壁土層断面(北から)

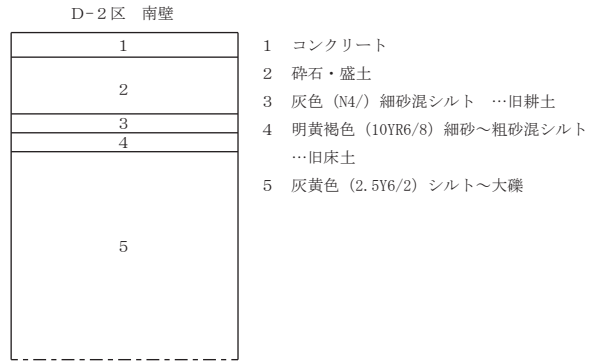


写真 88 D-3区南壁土層断面(北から)

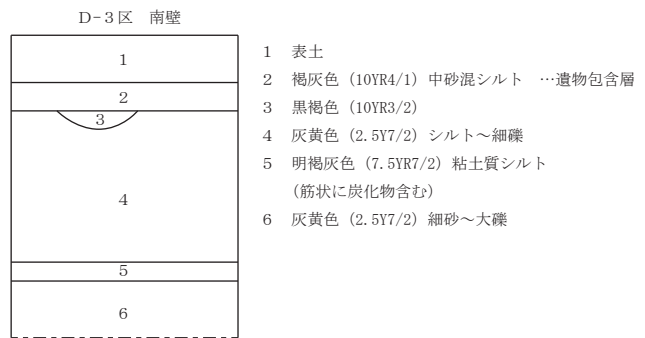


写真 89 E区a地点東壁土層断面(南西から)

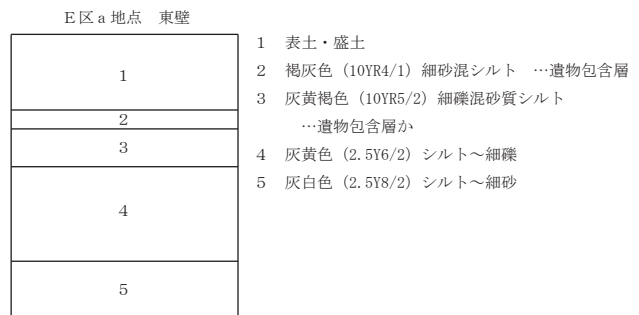


写真 90 E区b地点南壁土層断面(北から)

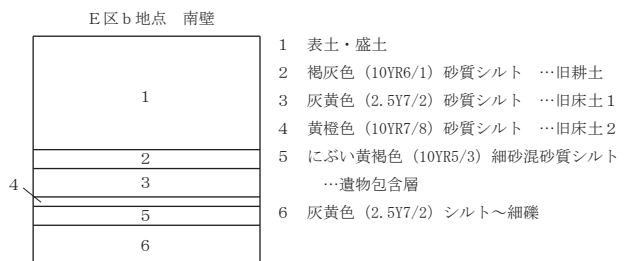


図 34 D・E区土層断面柱状図



写真 91 F区西壁土層断面(東から)

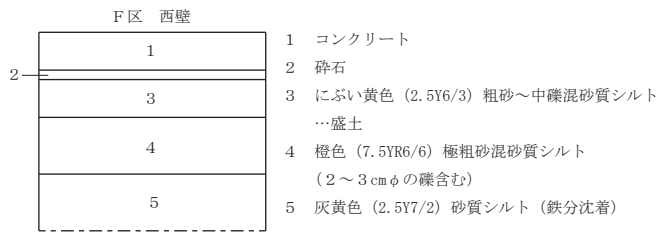


写真 92 G-1区西壁土層断面(東から)

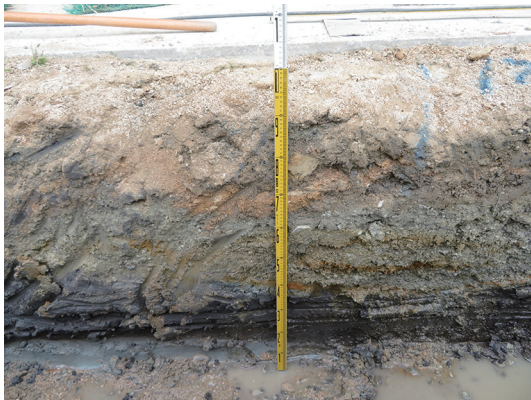
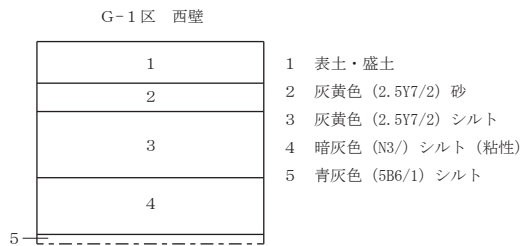


写真 93 G-2区東壁土層断面(西から)



写真 94 H-1区西壁土層断面(西から)

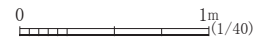
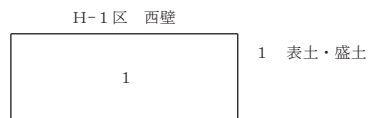


図 35 F・G・H区土層断面柱状図

F区(図35、写真91)

体育館東側通路上を通る配管路である。①コンクリート、②碎石、③盛土、④橙色極粗砂混砂質シルト(地山)、⑤灰黄色砂質シルト(地山)の層序となっている。地山面は現地地表下45cmで地山層となる(写真91)。遺構・遺物は確認されなかった。

G区(図35、写真92・93)

運動場北半の東端部に南北にのびる配管路で、調査の便宜上、G-1区とG-2区に分けている。G-1区の層序は、①表土・盛土、②黄灰色砂、③灰黄色シルト、④暗灰色シルト(粘性)、⑤青灰色シルト、G-2区の層序は、①表土、②盛土、③盛土、④暗灰色粘土質シルト、⑤青灰色シルトとなっており、大きく差異はない(写真92・93)。④暗灰色粘土質シルトの層については、G-2区の北端部では認められず、また、G-1区の南端部でも褐灰色粘土質シルト層が薄く堆積しているのが確認できるだけで、暗灰色層はみられない。このことから、④暗灰色粘土質シルト層はG-1区からG-2区にかけての約20～25mの間で堆積していると考えられる。

H区(図35・36、写真94・95)

特別教室棟北側から体育館北東端部にかけての配管路である。H-1区は掘削深度45cmで全て盛土の範囲内で(写真94)、H-2区はコンクリート・造成土の下に⑤明黄褐色シルトの地山層が認められた(写真95)。

I区(図37、写真96～98)

体育館南側の広場を通る配管路で、新規掘削となるため事前に調査を行った。I-1区は現地地表下180cmで地山層となるまでは全て盛土であった(写真96)。I-2区は現地地表下60～70cmで旧耕土にあたり、旧耕土・旧床土は数枚確認できた。地山と思われる礫層は現地地表下84cm～130cmで検出された(図37、写真97)。旧床土上で耕作にかかるものと思われる杭跡を1基確認したのみで(図37・写真98)、地山面上では遺構は認められず遺物も出土しなかった。

J区(図38・39、写真99～105)

教室棟Aの南側を通る配管路で、調査の便宜上、J-1～7区に細分した。J-1・5区は表土・盛土の直下で地山となり(写真99・103)、J-4・6・7区では表土・盛土の下にぶい黄橙色細砂混砂質シルトの層があり、地山に至る(写真102・104・105)。J-2・3区は遺物包含層と遺構が確認された。J-2区は、現地地表下45cmで④暗灰黄色細砂混シルト層となり、④層に切り込んでピット状の遺構が認められた(写真100)。J-3区は、現地地表下35cmで遺物包含層と思われる②黒褐色細砂混シルトとなり、現地地表下50cmの深度で、④にぶい黄橙色砂質シルトを切り込むピット・土坑状の遺構が確認された(写真101)。

K区(図40、写真106～109)

特別教室棟と教室棟Aとの間の配管路で、K-1～4区に細分している。K-3区のみ小学校の前身建物に関わるものかと思われる石積みがあったが(写真108)、それ以外は盛土の直下で地山となり、遺構・遺物は確認されなかった(写真106・107・109)。

L区(図41・42、写真110～118)

体育館と体育器具庫との間にある。調査の便宜上L-1～3区に細分した。L-1区は、体育館の南端から北へ約10mの地点から体育館北端まで、L-2区はL-1区南端部から西へ曲がって運動場に至るまで、L-3区はL-1区南端部から体育館南側に向かって斜めにのびる配管路である。L-1区のみ新規配管路として発掘調査を行い、L-2・3区は立会調査を行った。

L-1区の基本層序は調査区の北半と南半とで若干の相違がある。調査区北端から約8m付近までは



写真 95 H-2区北壁土層断面(南から)

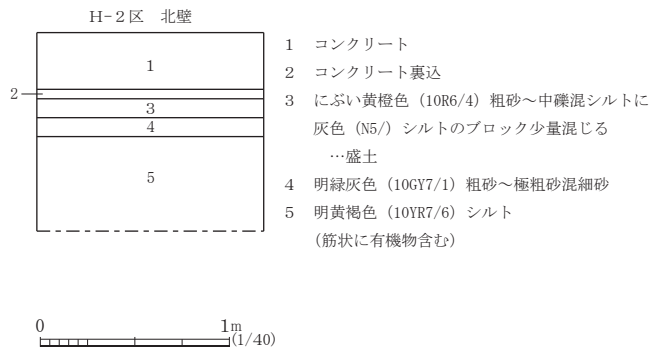


図 36 H区土層断面柱状図

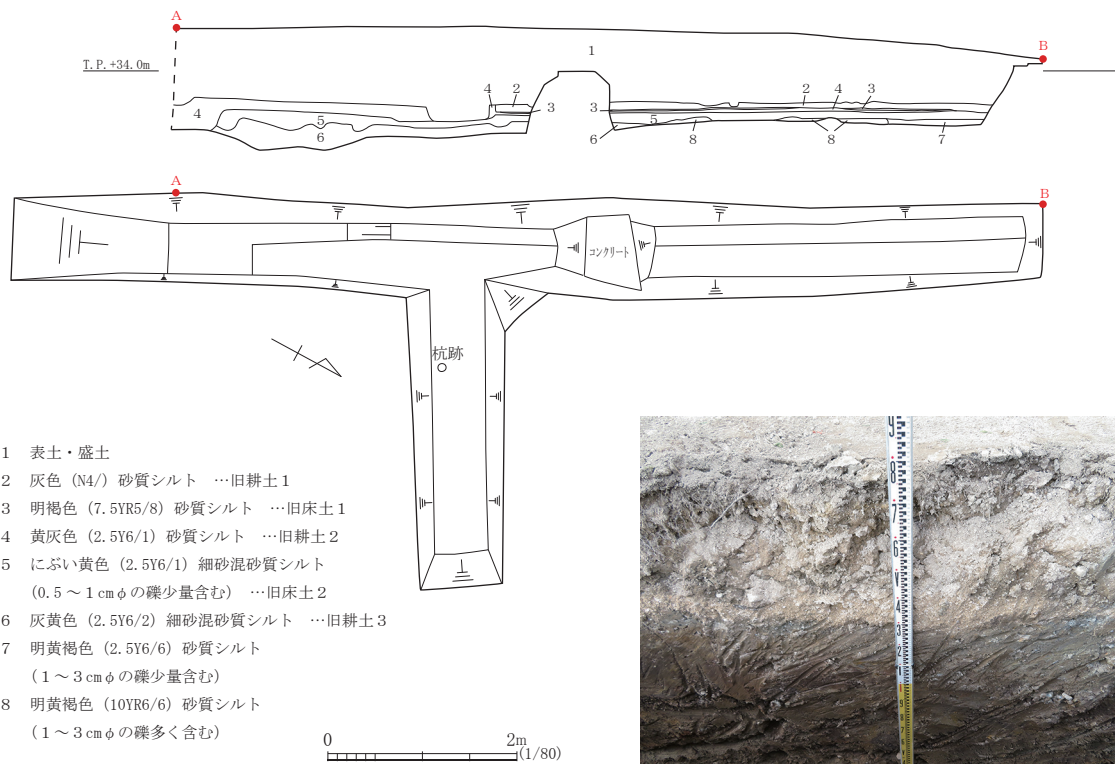


図 37 I-2区平面図・断面図



写真 96 I-1区南壁土層断面(北から)



写真 97 I-2区西壁土層断面(北東から)



写真 98 I-2区遺構検出状況(西から)



写真 99 J-1区南壁土層断面(北から)

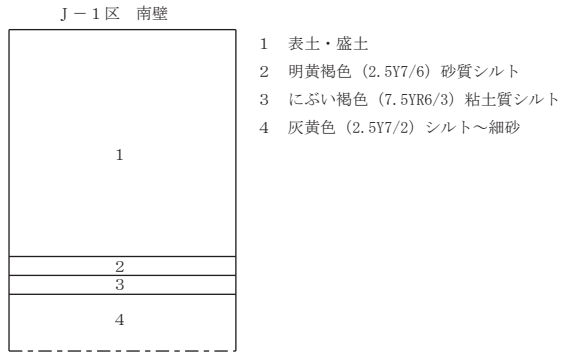


写真 100 J-2区北壁土層断面(南から)

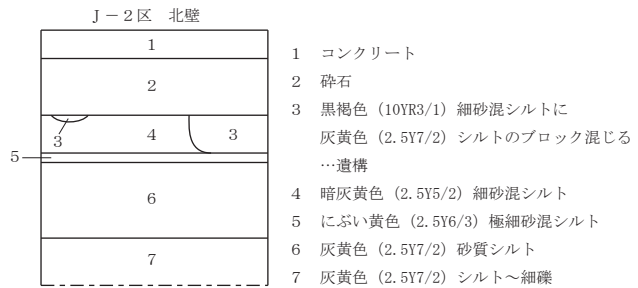


写真 101 J-3区北壁土層断面(南から)

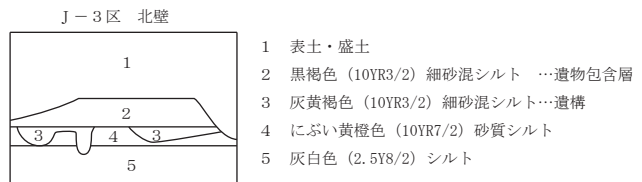


写真 102 J-4区北壁土層断面(南から)

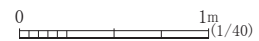
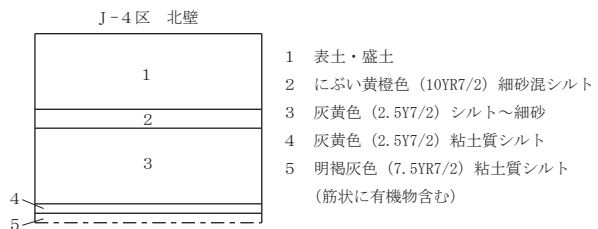
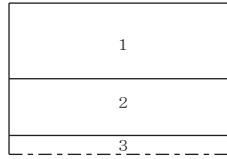


図 38 J区土層断面柱状図



写真 103 J-5区北壁土層断面(南から)

J-5区 北壁

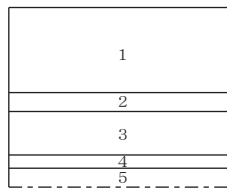


- 1 表土・盛土
- 2 灰黄色(2.5Y7/2)砂質シルト
- 3 明褐色(7.5YR7/2)粘土質シルト



写真 104 J-6区北壁土層断面(南から)

J-6区 北壁

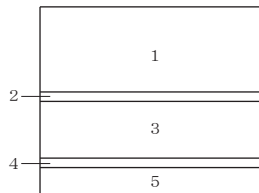


- 1 表土・盛土
- 2 にぶい黄橙色(10YR6/3)細砂混砂質シルト
- 3 灰黄色(2.5Y7/2)砂質シルト
- 4 明褐色(7.5YR7/2)粘土質シルト
(筋状に有機物含む)
- 5 灰白色(7.5YR8/2)シルト



写真 105 J-7区地北壁層断面(南から)

J-7区 北壁



- 1 表土・盛土
- 2 にぶい黄橙色(10YR6/3)細砂混砂質シルト
- 3 灰黄色(2.5Y7/2)砂質シルト
- 4 明褐色(7.5YR7/2)粘土質シルト
(筋状に有機物含む)
- 5 灰白色(7.5YR8/2)シルト

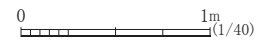


図 39 J区土層断面柱状図

旧耕土の下に現地地表下35cmで③黒褐色中砂混シルトの遺物包含層の堆積が認められるが(写真110)、それより南では遺物包含層はみられず、造成土を挟んだ旧耕土と旧床土の互層の直下で地山面が検出された(写真116)。調査地点の現地標高はT.P.+34.4m~34.5mで、遺物包含層はT.P.+33.9m~34mで認められた。なお、工事にかかる深度までを調査対象としたため、調査区北半部では③の遺物包含層は掘削せず、その途中で止めている(写真111)。遺物包含層からは弥生土器複合口縁壺の口縁部片のほか、弥生土器・土師器の細片が出土している。

L-1区南半では現地地表下80~98cm(T.P.+33.5m~33.6m)で地山面を検出し、調査区東壁際にピット(SP1)1基、東西方向の溝(SD1)を1条検出した(図42、写真115)。溝は幅21cm、深さ13.6cmである。ピットからは土師器の細片が、溝からは底付近で土師器高坏の口縁部片が出土している(写真117)。ピットは東壁外に続いており、検出長88cm、深さ12~24cmである(写真118)。

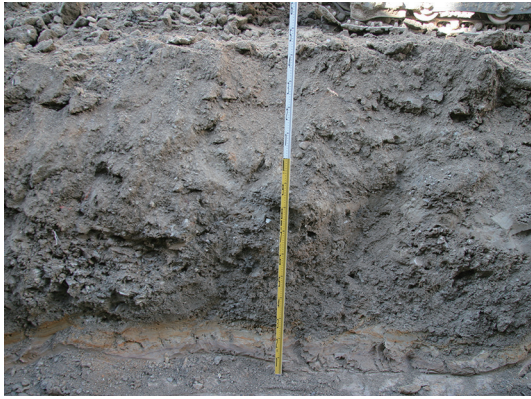


写真 106 K-1区北壁土層断面(南から)

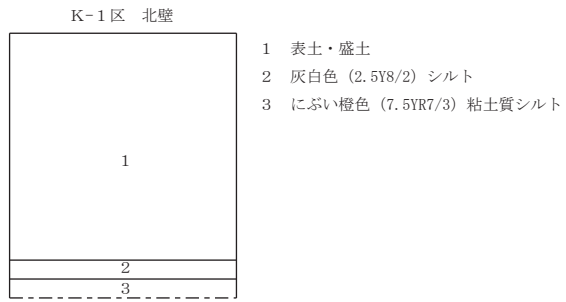


写真 107 K-2区北壁土層断面(南から)

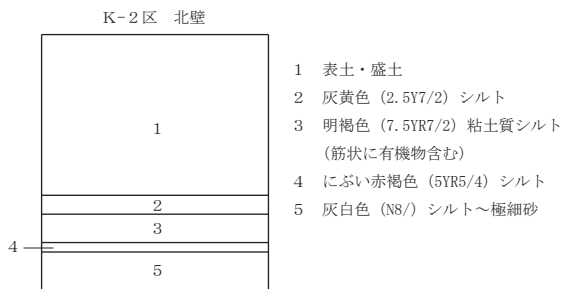


写真 108 K-3区北壁土層断面(南東から)

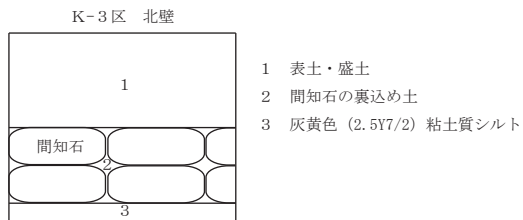


写真 109 K-4区北壁土層断面(南から)

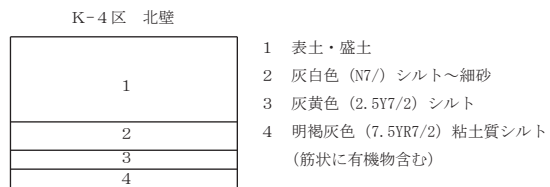


図 40 K区土層断面柱状図



写真 110 L-1区全景(北から)

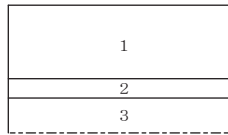


写真 111 L-1区北半包含層検出状況(西から)



写真 112 L-1区北半東壁土層断面(西から)
(北端から6m付近)

L-1区北半 東壁

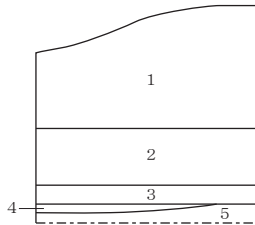


- 1 表土・盛土
- 2 灰黄色(2.5Y6/2)細砂混シルト
(0.5cmφの礫少量含む) …旧耕土
- 3 黒褐色(10YR3/1)中砂混砂質シルト
(0.5~1cmφの礫多く含む) …遺物包含層



写真 113 L-2区北壁土層断面(南から)

L-2区北壁

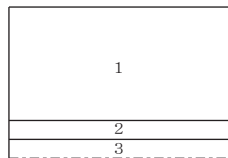


- 1 表土・盛土
- 2 橙色(7.5YR6/8)シルト
(0.5~1cmφの礫含む) …盛土
- 3 黄灰色(2.5Y6/1)砂質シルト
(0.5cmφの礫少量含む) …旧耕土
- 4 黄褐色(2.5Y5/3)細砂混シルト
(0.5~1cmφの礫含む) …旧床土
- 5 暗灰黄色(2.5Y5/2)中砂~大礫混シルト



写真 114 L-3区北東壁土層断面(南西から)

L-3区 東壁



- 1 表土・盛土
- 2 黄灰色(2.5Y6/1)細砂混砂質シルト
…旧耕土
- 3 明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルト
…旧床土



図 41 L区土層断面柱状図

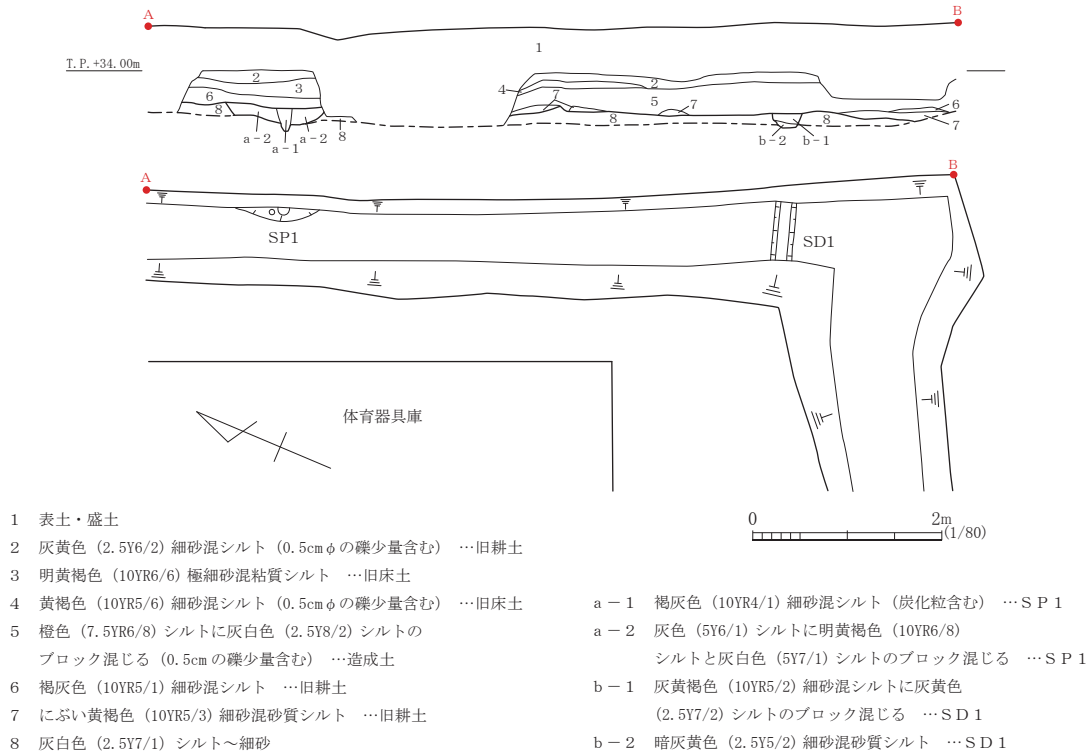


図 42 L-1 区南半平面図・断面図



写真 115 L-1 区南半遺構検出状況 (南から)



写真 116 L-1 区南半東壁土層断面 (北西から)



写真 117 SD1 土器出土状況 (南西から)



写真 118 SP1 完掘状況 (西から)

L-2区は、表土・盛土が厚く盛られており、現地表下95cmで旧耕土、その下に薄く旧床土があり、暗灰黄色中砂～大礫の地山となる(写真113)。L-3区は現地表下60cmで旧耕土、旧床土となる(写真114)。L-2・3区では遺構・遺物は確認されなかった。

M区(図43～46、写真119～132)

小学校正門前から駐車場にかけての配管路で、調査の便宜上、北半をM-1区、南半をM-2区とした。M-1区の現地標高はT.P.+34.2m、M-2区はT.P.+34.4～34.45mとなっている。

M-1区では、調査区の北端では旧耕土、旧床土の下に地山層がみられたが、調査区中央付近から南にかけては旧床土と地山層の間に1層(⑦にぶい黄褐色砂質シルト)あり(写真119)、その上面で遺構が検出された(第1面)。第1面は現地表下約50～55cm(T.P.+33.60m～33.65m)で、調査区北半部の地山面上のものも含めてピット14基と杭跡を検出した(図43、写真120)。第1面の記録作業の後、その基盤層(⑦層)を掘削し、地山面上での遺構検出を試みたが、天候と調査期間の都合上、簡易な検出写真のみにとどまった(写真121・122)。

M-2区においても遺構面が2面認められた。第1面は現地表下80～121cm(T.P.+33.25m～33.58m)で、ピット33基と土坑2基、杭跡を検出した(図45、写真123～125)。第1面の基盤となる層はM-2区全域に認められたが、調査にかけられる時間に限りがあるため、第2面(地山面)の検出は調査区の東半部のみに限った。第2面は現地表下88～115cm(T.P.+33.25m～33.50m)で、ピット6基を検出した(図46、写真131・132)。

N区(図47、写真133・134)

幼稚園管理棟の南側通路を通る配管路で、このN区のみ電気工事に関する掘削となっている。調査区の西半は造成により削平されていたが(写真134)、東端部(a地点)では①表土・盛土、②褐灰色シルト、③にぶい黄色砂質シルト、④にぶい黄色シルト～中礫、⑤にぶい黄色中砂～大礫の層序が認められた(写真133)。②層は遺物包含層と思われ、③層以下は地山となる。

O区(図47、写真135)

教室棟Aの東側から北東方向にのびる配管路である。層序は、表土・盛土の直下に明黄褐色粘土質シルトの地山となっており(写真135)、遺構・遺物は確認されなかった。

P区(図48・49、写真136～138)

教材管理棟の北側を通る配管路で、東西方向に3箇所管路の掘削が行われた。調査順にP-1～3区と調査区名を付与した。P-2・3区は新規掘削であるため発掘調査と同等の調査を行い、P-1区だけは新規掘削ではなかったため立会調査での対応となった。層序はP-1～3区で大きな差異はなく、表土・盛土の直下で灰色あるいは灰白色シルトの地山層となっている(写真136～138)。

Q区(図50、写真139・140)

教室棟Aと共用棟との間で、既設管からわずかに逸れるため新規管路として調査し、造成土・攪乱土の直下で遺構が検出された。調査区の西端部の狭小な範囲でピット3基、土坑1基、溝1条を検出した(図50、写真139)。また、それら遺構の東側では砂礫がみられ、狭小のため判断は難しいが、河川跡であると思われる。

R区(図51、写真141・142)

教室棟Aと特別教室棟との間の渡り廊下から教室棟Aの北側にかけての配管路で、R-2区は新規掘削のため発掘調査を行った。R-1区は掘削深度70cmで盛土の範囲内であった(写真141)。R-2区は調査区の大半が攪乱を受けており、現地表下20cmの深さで極一部でのみ地山面を確認したが、遺構・

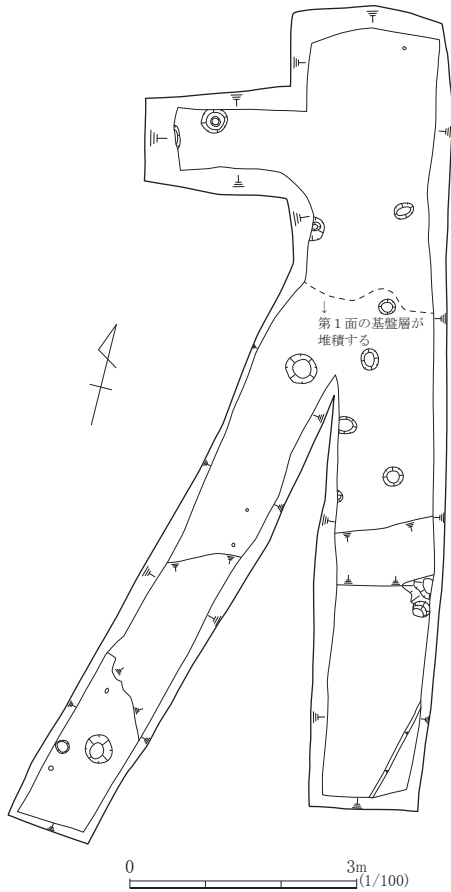
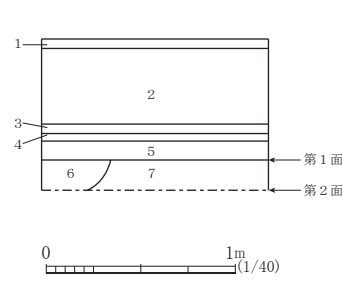


図43 M-1区第1面平面図



- 1 アスファルト
- 2 碎石・盛土
- 3 灰色 (N6/) 砂質シルト …旧耕土
- 4 浅黄色 (2.5Y7/4) シルト …旧床土
- 5 灰黄色 (2.5Y7/2) 砂質シルト
- 6 黒褐色 (10YR3/2) シルトに
にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルトの
ブロック混じる …遺構
- 7 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルト
…第1面基盤層 (遺物包含層)

図44 M-1区南半東壁土層断面柱状図



写真119 M-1区南半東壁土層断面 (西から)



写真120 M-1区第1面遺構完掘状況 (北から)



写真121 M-1区第2面遺構検出状況 (北から)

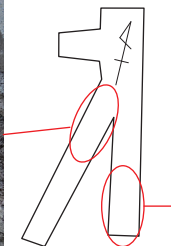


写真122 M-1区第2面遺構検出状況 (北から)

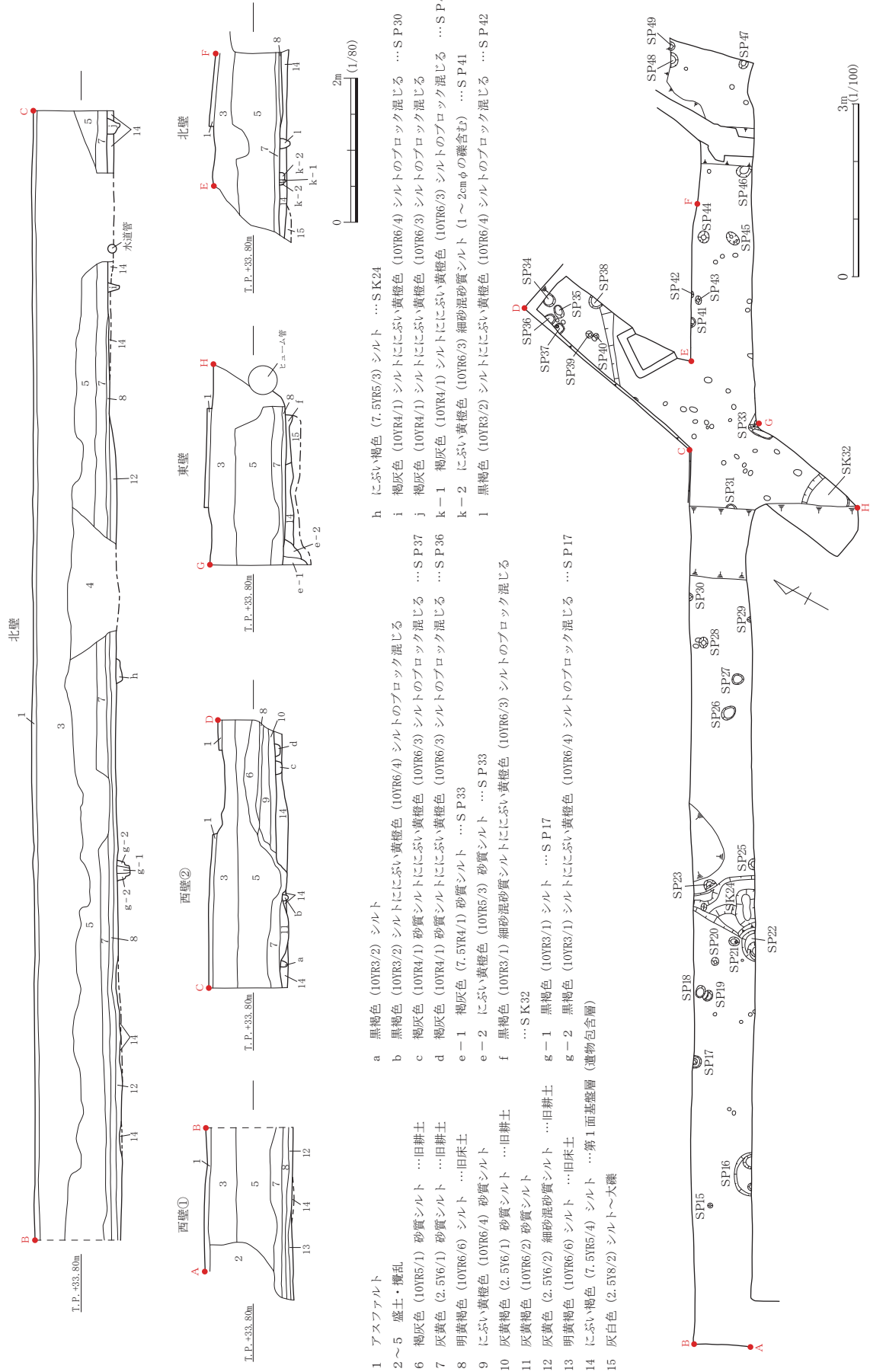


図 45 M-2 区第 1 面平面図・断面図

- | | | | | | |
|-----|--|-----|--|-----|---|
| 1 | アスファルト | a | 黒褐色 (10YR3/2) シルト | h | にぶい褐色 (7.5YR5/3) シルト …S K24 |
| 2~5 | 盛土・楕丸 | b | 黒褐色 (10YR3/2) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/4) シルトのブロック混じる | i | 褐灰色 (10YR4/1) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/4) シルトのブロック混じる …S P30 |
| 6 | 褐灰色 (10YR5/1) 砂質シルト …旧耕土 | c | 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトのブロック混じる …S P37 | j | 褐灰色 (10YR4/1) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトのブロック混じる …S P41 |
| 7 | 灰黄色 (2.5Y6/1) 砂質シルト …旧耕土 | d | 褐灰色 (10YR4/1) 砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトのブロック混じる …S P36 | k-1 | 褐灰色 (10YR4/1) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトのブロック混じる …S P41 |
| 8 | 明黄褐色 (10YR6/6) シルト …旧床土 | e-1 | 褐灰色 (7.5YR4/1) 砂質シルト …S P33 | k-2 | にぶい黄褐色 (10YR6/3) 細砂混砂質シルト (1~2cmφの礫含む) …S P41 |
| 9 | にぶい黄褐色 (10YR6/4) 砂質シルト | e-2 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルト …S P33 | l | 黒褐色 (10YR3/2) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/4) シルトのブロック混じる …S P42 |
| 10 | 灰黄褐色 (2.5Y6/1) 砂質シルト …旧耕土 | f | 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混砂質シルトににぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトのブロック混じる …S K32 | | |
| 11 | 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂質シルト | g-1 | 黒褐色 (10YR3/1) シルト …S P17 | | |
| 12 | 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂混砂質シルト …旧耕土 | g-2 | 黒褐色 (10YR3/1) シルトににぶい黄褐色 (10YR6/4) シルトのブロック混じる …S P17 | | |
| 13 | 明黄褐色 (10YR6/6) シルト …旧床土 | | | | |
| 14 | にぶい褐色 (7.5YR5/4) シルト …第 1 面基盤層 (遺物包含層) | | | | |
| 15 | 灰白色 (2.5Y8/2) シルト~大礫 | | | | |



写真 123 M-2区第1面遺構検出状況
(調査区西端から10m付近まで(西から))



写真 124 M-2区第1面遺構検出状況
(調査区東端から10m付近まで(東から))



写真 125 M-2区第1面遺構検出状況(北から)



写真 126 M-2区西壁①土層断面(東から)



写真 127 M-2区北壁土層断面
(調査区西端から8m付近まで(南東から))



写真 128 M-2区北壁土層断面
(調査区東端から中央付近まで(南東から))



写真 129 M-2区東壁土層断面(北から)



写真 130 M-2区西壁②土層断面(南から)

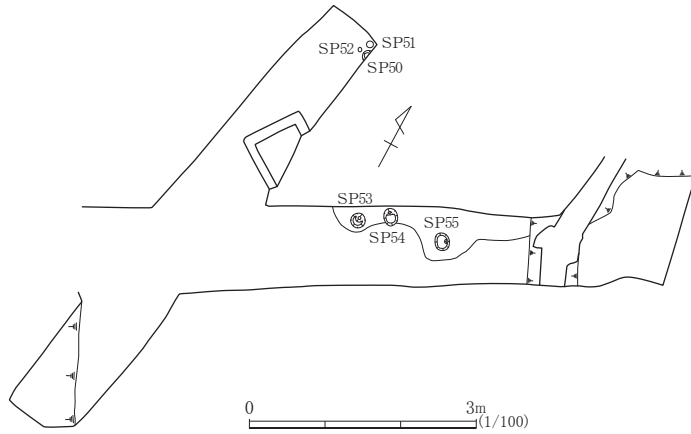


図 46 M-2区第2面平面図



写真 131 M-2区第2面遺構検出状況
(東から)



写真 132 M-2区第2面遺構検出状況 (南から)

遺物は検出されなかった(写真142)。

S区(図52、写真143)

体育館の南東角部分で、新設スロープ設置工事のため調査を行った。調査区の大半が削平されていたが、北半の一部に遺構面が残存していた。表土・盛土の直下のT.P.+33.7mで地山面を検出し、ピット5基、土坑1基、不明遺構1基を確認した(図52、写真143)。

T区(図53、写真144・145)

共用棟の北側で、新設スロープ設置のため調査を行った。既設配管等による削平範囲が大きいですが、調査区の北壁際にピット1基を検出した(図53、写真144)。表土・盛土の直下で地山面を検出し、遺構検出面はT.P.+33.6mとなっている(写真145)。

U区(図54・55、写真146～151)

教室棟Bと教室棟Cの南側を通る管路で、調査の便宜上、U-1～6区に細分しており、U-1～4区は教室棟Cの南側にあり、U-5区は教室棟Bの南側、U-6区は教室棟Cから教室棟Bへつながる渡り廊下沿いにある。

U-1区の層序は、①表土・盛土、②灰色シルト(旧耕土1)、③明黄褐色シルト(旧床土)、④灰黄色シルト～細砂(旧耕土2)、⑤遺構埋土、⑥浅黄色シルト～中砂(礫多く含む)(遺物包含層)、⑦灰白色シルト～極細砂(地山層)となっており(写真146)、層厚や土質に若干の差異はあるもののU-3・4区でも概ね同じ層序で(写真148・149)、U-2区は③層がみられない堆積となっている(写真147)。U-1・3区では⑥層(現地表下72cm)、U-2区では⑤層の上面(現地表下67cm)から切り込むピット状の遺構が



写真 133 N区 a 地点北壁土層断面 (南から)

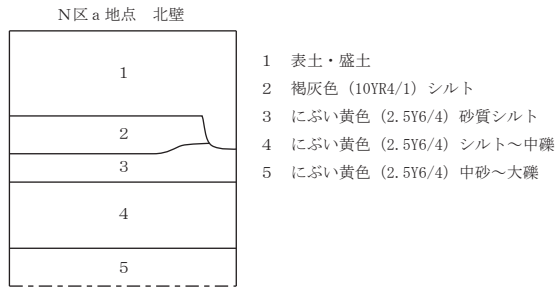


写真 134 N区 b 地点北壁土層断面 (南から)

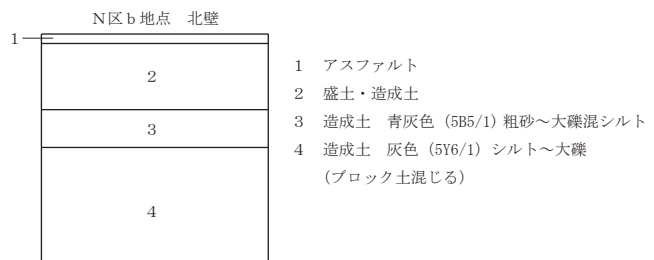


写真 135 O区北西壁土層断面 (南東から)

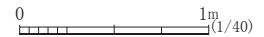
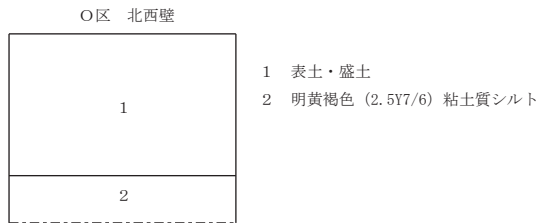


図 47 N・O区土層断面柱状図

土層断面で確認された。遺構面の基盤となっている層はM区の第1面の基盤層につながるものとみられる。U-4区は大半が攪乱を受けていたが一部残存している部分があり、層序はU-1・3区とほぼ相異なかった。U-5区は現地地表下59cmで旧耕土が確認でき(写真150)、U-6区は削平を受けているようで旧耕土・旧床土はみられず、現地地表下75cmで黄灰色シルトの地山層となっている(写真151)。

V区(図55、写真152)

教材管理棟の東側の配管路である。掘削深度は80cmで現地地表下40cmで灰白色シルトの地山層が検出されたが、遺構遺物は確認されなかった(写真152)。

(4) 遺物

調査が基本的に立会調査であったことや各調査区が狭小であったこともあり、出土遺物は多いとは言

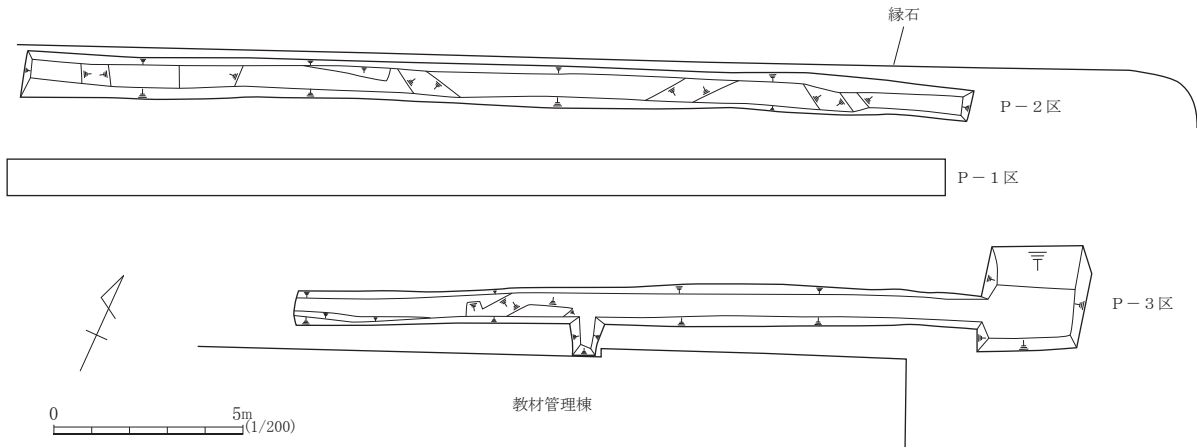
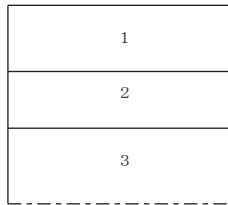


図 48 P区平面図



写真 136 P-1区南壁土層断面(北から)

P-1区 南壁

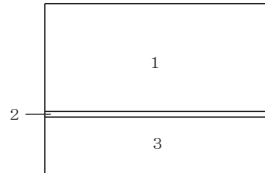


- 1 表土・盛土
- 2 灰白色 (2.5Y8/1) 砂質シルト
- 3 灰白色 (2.5Y8/1) 中砂～細礫



写真 137 P-2区北壁土層断面(南西から)

P-2区 南壁

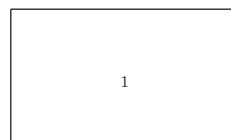


- 1 表土・盛土
- 2 灰色 (N5/) シルト
- 3 灰白色 (2.5Y8/1) シルト



写真 138 P-3区南壁土層断面(北東から)

P-3区 南壁



- 1 表土・盛土



図 49 P区土層断面柱状図

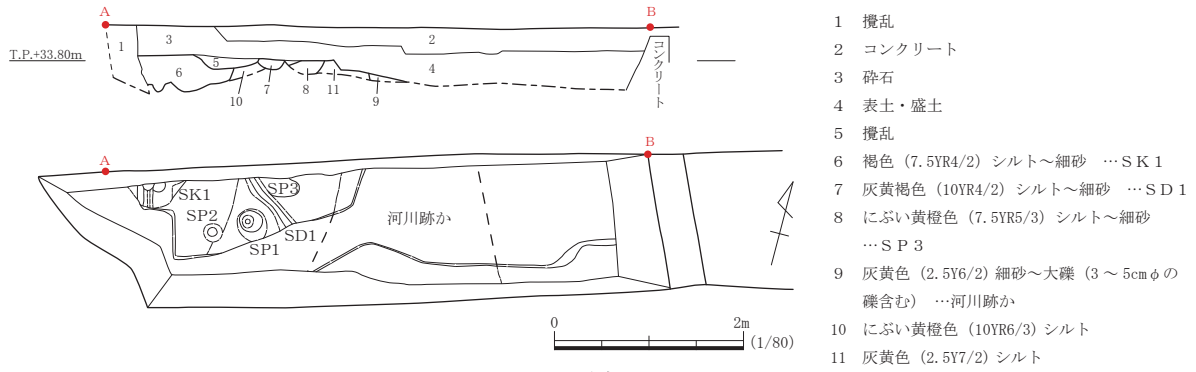


図 50 Q区西端部平面図・断面図



写真 139 Q区西端部遺構検出状況 (西から)



写真 140 Q区西端部北壁土層断面 (南西から)



写真 141 R-1区北壁土層断面 (南から)

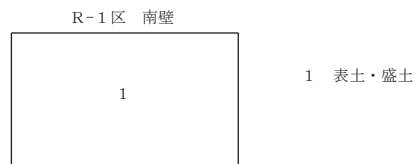


写真 142 R-2区北全景 (北から)



図 51 R区土層断面柱状図

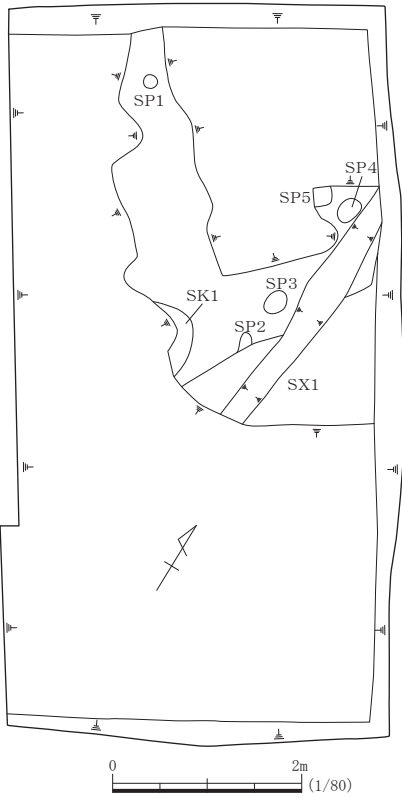


写真 143 S区遺構検出状況(北から)

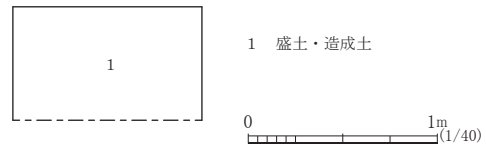
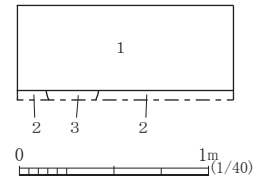
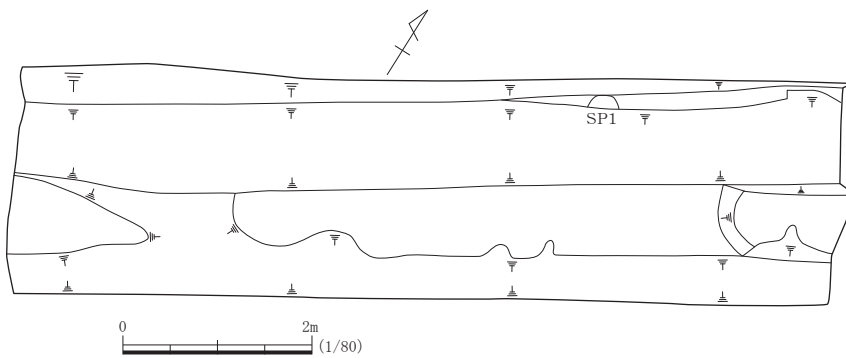


図 52 S区平面図・土層断面柱状図



- 1 碎石
- 2 にぶい黄橙色(10YR7/2)砂質シルト
- 3 にぶい褐色(7.5YR5/3)シルト …SP1

図 53 T区平面図・土層断面柱状図



写真 144 T区遺構検出状況(東から)



写真 145 T区北壁土層断面(南東から)



写真 146 U-1区南壁土層断面(北西から)

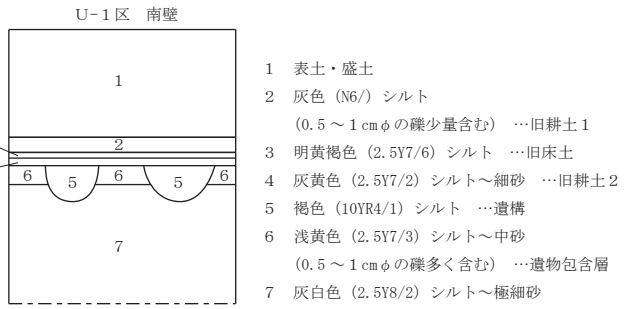


写真 147 U-2区南壁土層断面(北から)

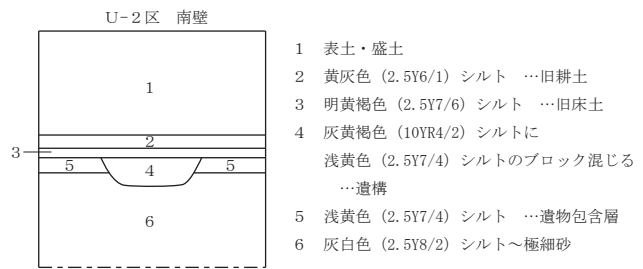


写真 148 U-3区北壁土層断面(南から)

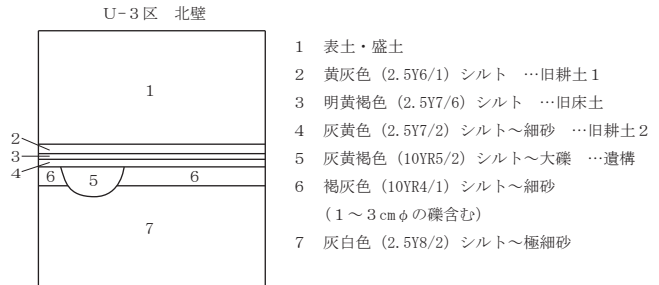


写真 149 U-4区南壁土層断面(北から)

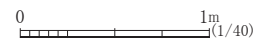
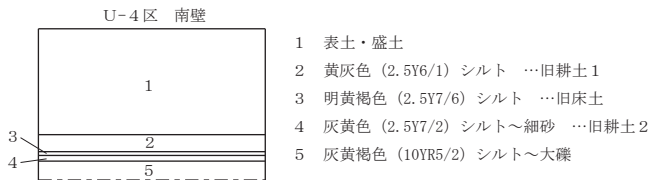


図 54 U区土層断面柱状図



写真 150 U-5区北壁土層断面 (南西から)



写真 151 U-6区西壁土層断面 (東から)

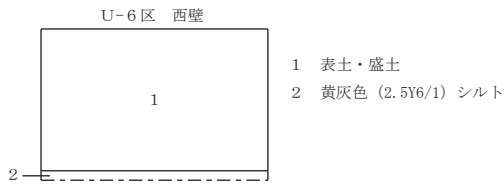


写真 152 V区東壁土層断面 (北西から)

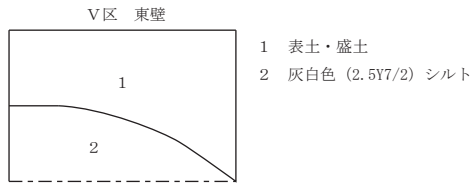


図 55 U・V区土層断面柱状図

えないが、事前に発掘調査を行ったL・M・Q区などでは、遺構や遺物包含層から出土を確認した。遺物は土師器の細片が主で、縄文土器片、弥生土器片などが出土している。

[土器](図56、写真153、表7)

L区出土土器

L区は調査区の北半で包含層を検出し、南半では地山面および遺構を検出しており、遺物包含層からは弥生土器・土師器が出土している。遺構から出土したものは、1のSD1から出土した土師器高杯の口縁部片のみである。内外面にヨコハケののちナナメミガキが施されているのが確認できる。2は遺物包含層から出土した弥生時代終末の複合口縁壺の口縁部片である。内外面にナナメハケが残る。

M区出土土器

3～5はM-1区の第1面検出の遺構から出土したもの。3・4は器種不明の縄文土器の細片。条痕が

認められる。5は土師器の器種不明の底部片。台付鉢か。6はM-1区旧耕土・床土から出土した灯明皿。7・8はM-2区の第1面検出の遺構から出土したもの。7は器種不明の縄文土器の底部片で、外面に条痕が残る。8は器種不明の縄文土器片。条痕が残る。9はM-2区の遺構面の精査時に検出したもので土師器甕の口縁部片。

Q区出土土器

10は各遺構の形状を確認する前に全体に一つの不整形な状態で確認していた時点で出土したもので、土師器甕の体部片。外面にはハケ、内面はナデが施されている。11は機械掘削時に確認したもので土師器高坏の脚部片。12は正確には攪乱土となるが、遺構の埋土に食い込んだ状態で出土したもので土師器甕の口縁部片。

[石器](図57、写真154、表8)

13・14はいずれもM-1区の遺物包含層から出土した黒曜石の剥片。

(5)まとめ(図58)

今回の調査は各調査区が狭小で調査成果も断片的ではあるものの、幼稚園・小学校の全域に渡って成果が得られ、調査地の遺構・遺物包含層の分布地域がさらに広がる^{註1}ことが分かった(図58)。ここで改めて、既往調査の成果も含めて、小学校・幼稚園構内の遺跡の様相を確認していきたい。

既往の調査をみると、小学校運動場北西部では自然木・木製品が出土する溝状遺構が検出されており、その下層にも黒色粘土の遺物包含層が認められている^{註2}(図58①)。また、体育器具庫・G-2区の西側にあたる場所では、黒色粘質土と砂礫層を埋土とする東西方向の溝状遺構が検出されている^{註3}(図58②)。調査箇所から想定すると、G-1・2区で確認した④暗灰色粘土質シルト層(図35、写真92・93)は、おそらくこの溝状遺構の黒色粘質土層が対応するものと思われる。G-2区で確認した暗灰色粘土質シルト層は、調査区北端から10mほどのところで緩やかにあがって途切れてなくなり、礫層となる。既往の調査で検出された溝状遺構の土層断面図も緩やかな落ち込み状であり、G-2区の粘土質シルト層の肩と思われる位置とはやや隔たりがあるが、溝状遺構の肩はそれに関係するものとみてよいと思われる。

溝状遺構の埋土となる粘土質シルト層については、溝状遺構の肩部にあたると思われる箇所以外はG-2区からG-1区中央付近にかけてほぼ水平に堆積しており、G-1区の南部では層が希薄になっていく状況を確認している。溝状と表現するには南側の肩部が確認できないことから、G-1・2区周辺一帯は緩やかな落ち込み状の低湿地状態にあったのではないかと推測している。

小学校運動場の南部では古墳時代中期の方形竪穴住居跡^{註4}(図58③)、弥生時代後期から庄内併行期の円形竪穴住居跡、庄内古段階の方形竪穴住居跡が検出されている^{註5}(図58④)。それらに近い今回調査したB区ではピットや土坑を検出しており(図32、写真78～82)、出土遺物がなく詳細は不明であるが、住居跡に近い時期のものである可能性が高い。

小学校正門前から駐車場、教室棟C、事務棟の周辺一帯では、既往の調査において弥生時代から古墳時代の住居跡や土坑等が検出されており(図58⑥)、また、大内氏館B式土師器が出土するなど中世以降の遺構・遺物も認められている^{註6}(図58⑤)。この周辺での今回の調査については、U区の土層断面において数基のピット状の遺構を確認し(図54、写真146～148)、新規掘削となるM区でも遺構・遺物を検出した(図43～46、写真119～132)。既往の調査成果の遺構平面図に齟齬があるようで不明瞭な点もあるが^{註7}、当該地一帯では比較的密に遺構が分布していることが確認された。

M区では2面の遺構面を検出しており、遺物包含層から弥生土器・土師器の細片が出土していること

や、隣接する既往調査の成果から、おおよそ弥生時代から古墳時代に属する可能性が高いと思われるが、第1面検出の遺構から、細片ではあるものの、2枚貝条痕が施されている縄文土器片が出土していることは注視される^{註8}。

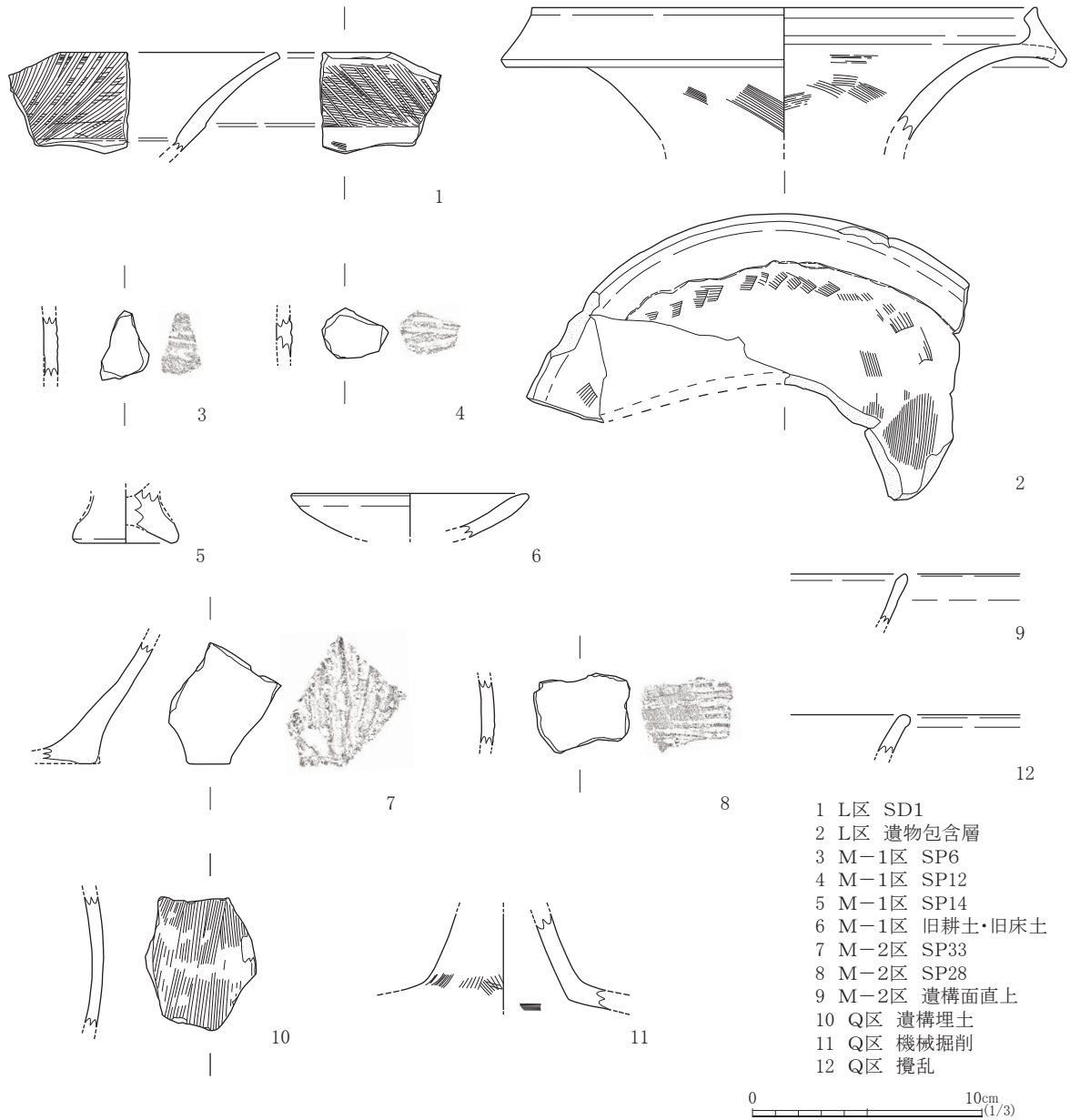
小学校南側の五十鈴川沿いで行われた(財)山口県埋蔵文化財センターによる調査では、小学校駐車場の南側にあたる調査区で古墳時代中期の河川跡が検出されている(図58⑦)。平成元年度(1989)に小学校で行われた調査では、教室棟Bの南側の調査区において北東から南西に向かって地山が大きく落ち込んでいる状況が確認されており、位置から考えて、おそらくその河川跡に繋がるものと考えられる。なお、今回調査のU-5区も河川跡にあたると思われるが、掘削深度が旧耕土までであったため、河川跡の有無までは確認できていない。また、U-5区より北の調査区や周辺の調査区で河川跡に続くような地山の落ち込みはみられないが、これについては「構内の南西端部付近では東から西に延びる丘陵が局部的に樹手状に張り出している可能性を示唆している」と、白石遺跡一帯の地形の特徴によるものとの指摘がなされている^{註10}。

その他の河川跡については、幼稚園舎の北側、特別教室棟と教室棟Aの間(図58⑨)、教室棟Aの南西隅部と教室棟Aの東側(図50)でも確認されており、幼稚園舎の北側の河川跡だけが出土遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭との時期が判明している(図58⑧)。それぞれ明確な繋がりが見出せるものではないが、各所での河川堆積を示す土層断面の記録も踏まえて、幼稚園舎北側から南西方向への流筋が想定できる。

今回の調査では、既設管や造成により削平された所が多いものの、事前に調査を行った調査区の一部では遺構や遺物包含層が確認された。また、立会対応としたところにおいても、壁断面で遺構を確認した箇所もあり、敷地内の所々で遺構の遺存が認められた。以後も掘削を伴う工事等の際には慎重に対応する必要があると思われる。

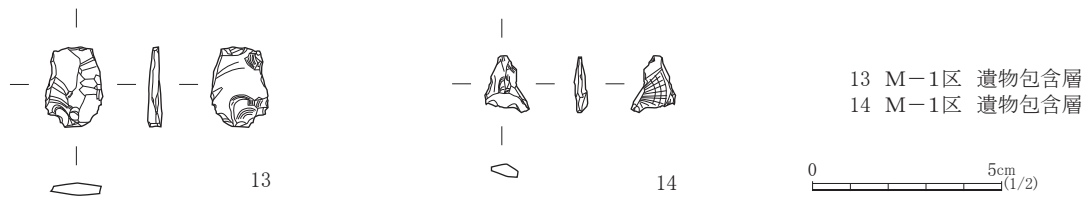
【註】

- 1) 田畑直彦(2012)「白石遺跡」, 山口市(編)『山口市史 史料編 考古・古代』, 山口 の中で示されている遺跡の範囲を参考に図58を作成
- 2) 森田孝一(1985)「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』, 山口
- 3) 木村元浩・河村吉行(1991)「教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 4) 註2に同じ
- 5) 古賀真木子・河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 6) 古賀真木子・河村吉行(1991)「亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅸ』, 山口
- 横山成己(2021)「教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成28年度－』, 山口
- 7) 横山成己(2021)「教育学部附属山口小学校雨水管改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成28年度－』, 山口
- 8) 縄文土器については、遺構からの出土は確認されていない。幼稚園舎南側調査区で確認された河川堆積と思われる砂礫層



- 1 L区 SD1
- 2 L区 遺物包含層
- 3 M-1区 SP6
- 4 M-1区 SP12
- 5 M-1区 SP14
- 6 M-1区 旧耕土・旧床土
- 7 M-2区 SP33
- 8 M-2区 SP28
- 9 M-2区 遺構面直上
- 10 Q区 遺構埋土
- 11 Q区 機械掘削
- 12 Q区 攪乱

図 56 出土土器実測図



- 13 M-1区 遺物包含層
- 14 M-1区 遺物包含層

図 57 出土石器実測図

と、遺物包含層から縄文土器が出土している。

9) 小南裕一(2006)『白石遺跡』, 山口県埋蔵文化財センター調査報告第56集、山口県埋蔵文化財センター(編), 山口

10) 註5に同じ

11) 本章第3節1「教育学部附属山口小学校改修工事(EV・渡り廊下)に伴う本発掘調査」を参照

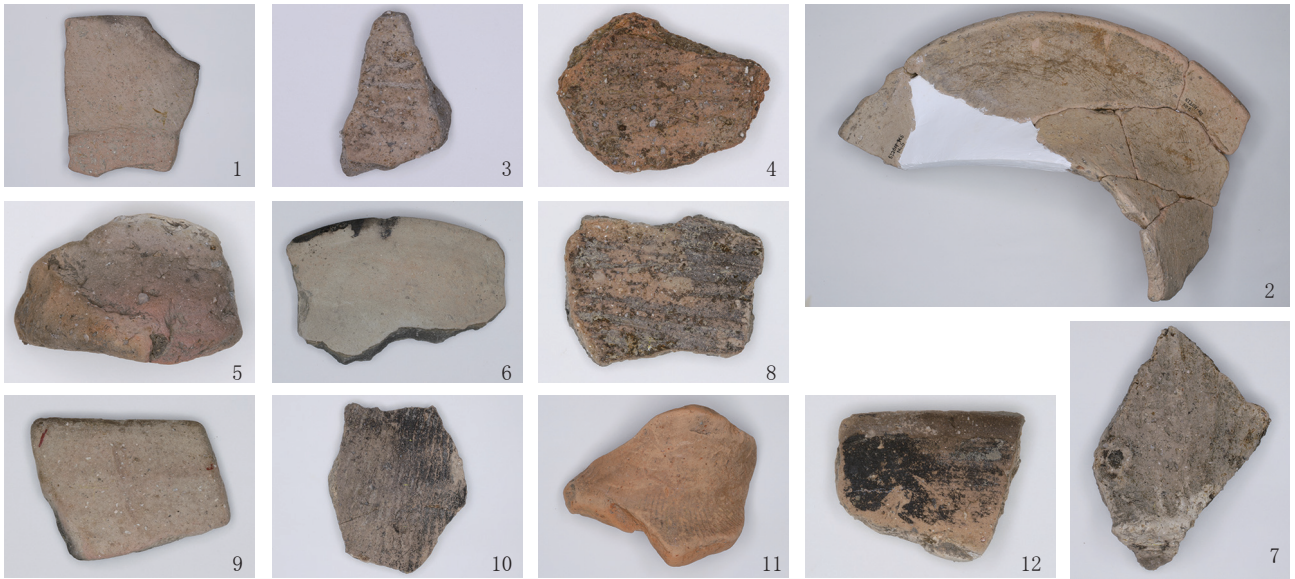


写真 153 出土遺物(土器)



写真 154 出土遺物(石器)

表7 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	L区 SD1	土師器 高坏	口縁部	③残高4.4	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい橙色(7.5YR7/2)		0.3~0.5mm φの長石含む	
2	L区 遺物包含層	弥生土器 壺	口縁部	①(22) ③残高6.0	①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)		0.5~2mm φの長石・石英・く さり礫含む	
3	M-1区 SP6	縄文土器 機種不明	胴部		①にぶい黄橙色(10YT7/3) ②褐灰色(10YR5/1)		0.5~2mm φの長石・石英含 む	
4	M-1区 SP12	縄文土器 機種不明	胴部		①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②橙色(7.5YR6/6)		0.5~2mm φの長石・石英含 む	
5	M-1区 SP14	土師器 器種不明	脚部	②(4.0) ③残高2.35	①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)		0.5~2mm φの長石・石英・ チャート含む	
6	M-1区 旧耕土 旧床土	土師器 灯明皿	口縁部	①(10.2) ③残高1.95	①②浅黄色(2.5Y7/3)		0.3mm φの長石少量含む	
7	M-2区 SP33	縄文土器 器種不明	底部	③残高5.3	①灰黄褐色(10YR6/2) ②オリーブ黒色(5Y3/1)		0.5~2mm φの長石・石英・ チャート含む	
8	M-2区 SP28	縄文土器 機種不明	胴部		①褐灰色(10YR5/1) 橙色(7.5YR6/6) ②オリーブ黒色(10Y3/1)		0.5~1mm φの長石含む	
9	M-2区 遺構面直 上	土師器 甕	口縁部	③残高2.2	①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)		0.5mm φの長石含む	
10	Q区 遺構埋土	土師器 甕	体部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)		0.5~1mm φの長石・石英含 む	
11	Q区 機械掘削	土師器 高坏	脚部	③残高4.1	①②黄褐色(7.5YR7/6)		0.5~2mm φの長石・チャ ート・くさり礫含む	
12	Q区 攪乱	土師器 甕	口縁部	③残高1.7	①にぶい黄褐色(10YR4/3) にぶい黄褐色(10YR6/4) 黒色(5Y2/1) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)		0.5~1mm φの長石・石英含 む	

表8 出土遺物(石器)観察表

法量()は残存値

遺物 番号	遺構・ 層位	器種	法量(cm)				石材	備考
			①長さ	②幅	③重量(g)	④重量(g)		
13	M-1区 遺物包含層	剥片	①2.15	②1.4	③0.35	④1.49	黒曜石	
14	M-1区 遺物包含層	剥片	①1.5	②1.1	③0.35	④0.46	黒曜石	

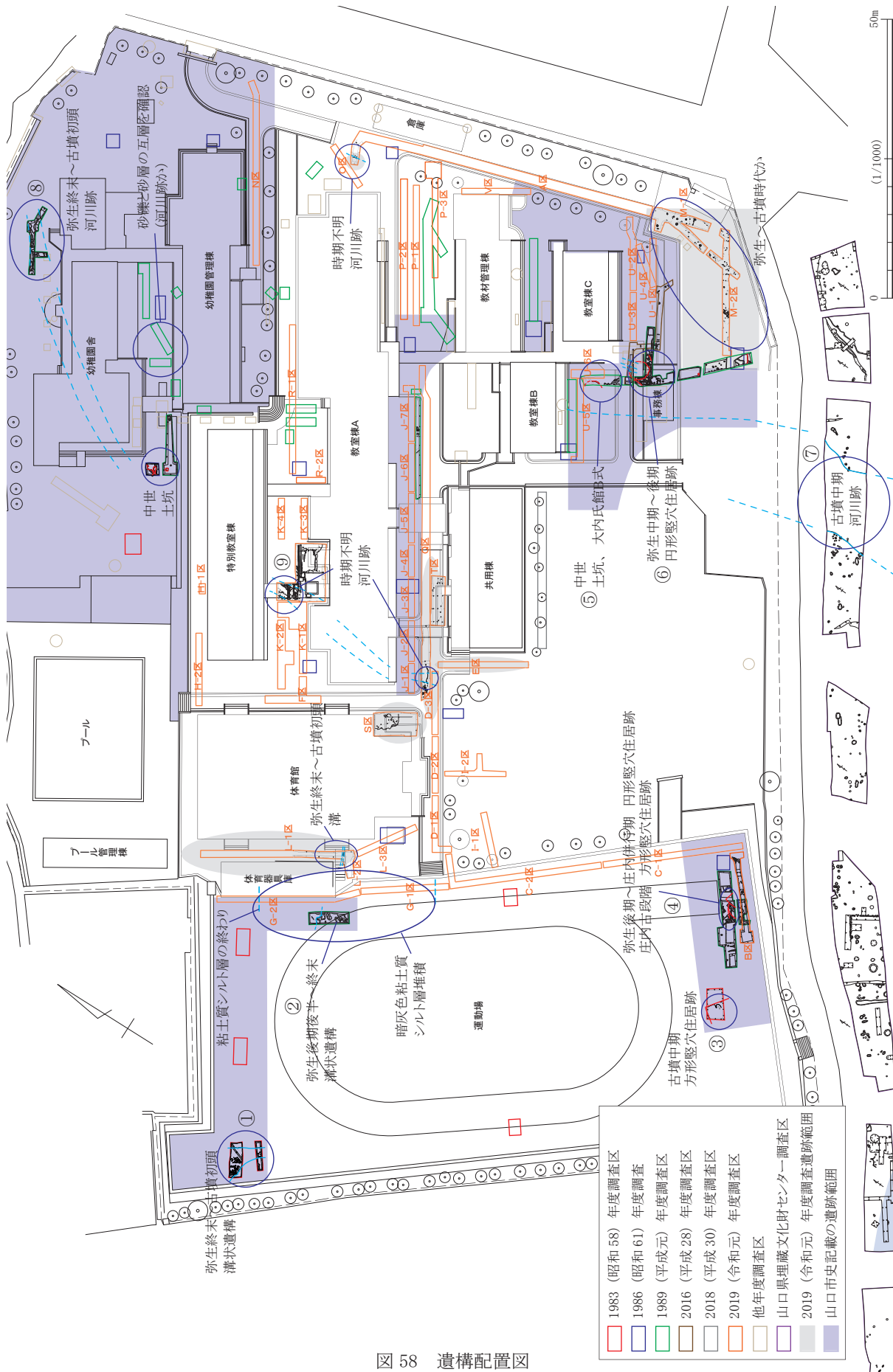


図 58 遺構配置図

3. 教育学部附属山口小学校改修に伴う仮設校舎設置工事に伴う立会調査

調査地区 共用棟A南東側運動場(臨時駐車場)

調査面積 205m²

調査期間 令和元年8月26日、10月2日

調査担当 横山成己

調査結果

前項の通り、令和元年度に教育学部附属山口小学校の全面改修工事が実施されることとなったことから、代替教室の確保のため、共用棟Aの南東側にある運動場(臨時駐車場)に仮設校舎2棟の設置が計画された(図59のA・B区)。同地は前年に実施した鉄棒改修工事に伴う立会調査^{註1}で、地下50cmまでは表土および造成土であることが確認されている。当工事での掘削は30cm以内で計画されていたが、掘削範囲が広域であることから、慎重を期し先行して実施されたA区の重機掘削時に工事立会を行ったところ、計画通り工事が実施されていることを確認した(写真155)。

仮設校舎設置後、A区北東側の設備工事に際して、部分的に深さ75cmの掘削が必要となったことから、急きょ立会調査を実施する運びとなった。

調査の結果、現地表下55cmまでが造成土で、以下に層厚7cmの旧耕土、層厚8cmの旧床土、そして層厚5cm以上の黄灰色シルト層を確認した(図60、写真156)。黄灰色シルト層中に遺物は認められなかったが、遺物包含層の可能性もあり注意が必要である。

【註】

1) 横山成己(2022)「教育学部附属山口小学校運動場鉄棒改修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成29・30年度—』, 山口

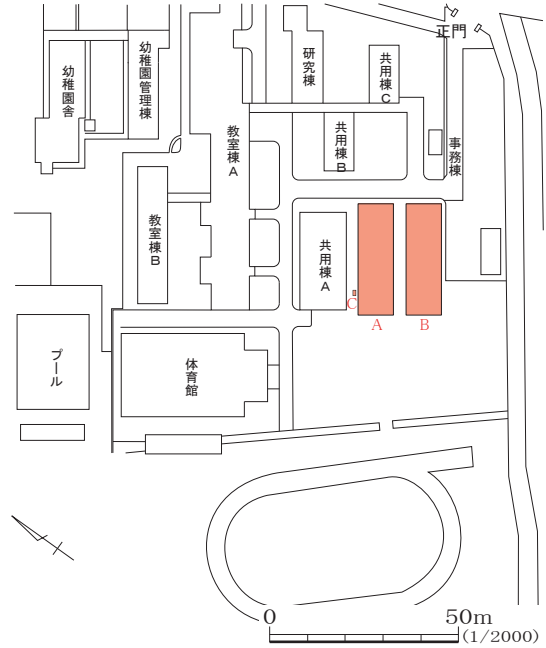


図 59 調査区位置図



写真 155 A区掘削状況(北東から)

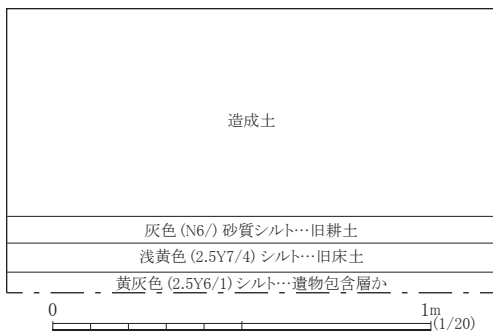


図 60 C区土層断面柱状図



写真 156 C区北西壁土層断面(南東から)

4. 教育学部附属山口小学校基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査

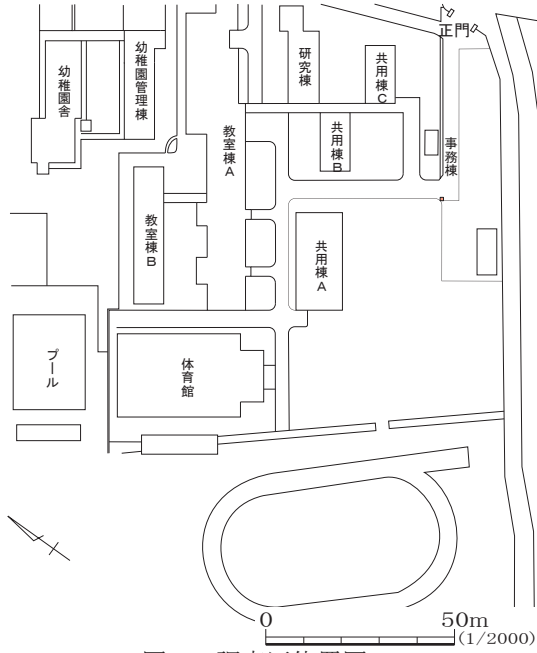


図 61 調査区位置図

調査地区 事務等棟南西側門

調査面積 0.54㎡

調査期間 令和元年6月27日

調査担当 横山成己

調査結果

平成30年(2018)6月18日に震度6弱を観測した大阪北部地震では、ブロック塀の倒壊により2名の犠牲者が生じた。この痛ましい事故を受けて、全国規模でブロック塀安全調査が実施され、基準を満たさない塀の撤去改修が順次行われることとなった。本学でも、事故直後から調査が進められ、平成30年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(11月22日(木)開催)にて、全構内におけるブロック塀改修工事計画に対する埋蔵文化財保護対応が諮られ、新規に地下の掘削を伴う工事に対しては、立会調査にて対応することが諮られ、承認された。工事は平成30年度後半から実施されており、吉田構内および光構内での調査結果はすでに報告済み^{註1}である。

白石構内教育学部附属山口小学校・幼稚園敷地では、令和元年度に至り着手されることになった。計画された工事は2箇所、構内南西側運動場(トラック)北西隅のブロック塀については、上部構造物の撤去のみ行う計画であったことから、新規でフェンス基礎が設けられる事務局棟南西側工事地点にて立会調査を実施した。工事掘削深度は40cmで、造成土内に止まったことから埋蔵文化財に支障は生じなかった。

【註】

- 1) 横山成己(2022)「基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成29・30年度—』, 山口
- 田畑直彦(2022)「基幹・環境整備(ブロック塀対策)工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成29・30年度—』, 山口



写真 157 掘削地点(南から)



写真 158 北東壁土層断面(南西から)

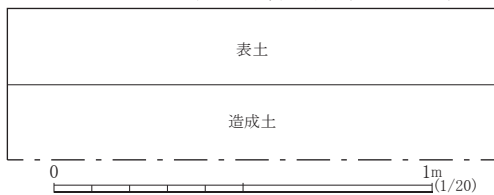


図 62 土層断面柱状図